

MYU

CURRICULUM

GUIDE 2023

食産業学群

生物生産学類

フードマネジメント学類

履修ガイド



School of Food Industrial Sciences

Department of Integrative Studies of Plant and Animal Production

Department of Food Science and Business

はじめに

この「履修ガイド」には、宮城大学に入学された皆さんにとって、大学での4年間の学びが充実したものとなるよう学修計画を立て、実現していくために必要となる基本的な情報がまとめられています。

大学では、高校までとは違い、入学した当初から自分自身で考え、行動することが求められます。高校ではあらかじめ時間割のほとんどが決められており、自分自身で考えて授業科目を選択することはあまりなかったかもしれませんが、大学では、多くの授業科目の中から、自分の勉強したい科目を調べ、登録するといった作業を自分の判断で責任を持って行わなければなりません。この一連の履修に関係する要件や各種手続きのほか、入学から卒業までの基本的な流れ、基盤教育・専門教育課程の特徴等を「履修ガイド」で説明しています。

また、宮城大学では、学群・学類・コースごとに「進級・卒業に必要な単位数」を定めています。この条件を満たし、順調に進級・卒業できるよう、この「履修ガイド」を熟読した上で、各授業科目の内容が記載された「シラバス」を活用して、卒業後の進路も見据え、納得のいく学修計画を立ててください。

「履修ガイド」は、入学時だけではなく、毎年の履修登録のとき、学修計画や進路で迷ったり、分からないことに会ったとき、読み返してみることで、解決の方法や糸口が見つかるような「便利帳」の役割も果たしていますので、卒業まで大切に手元に置いて活用してください。

目次

I	宮城大学カリキュラムの全体像	06
①	宮城大学の教育目標	06
②	宮城大学の教育基本方針	06
③	学群・学類について	06
II	総論	09
①	入学から卒業までの基本的な流れ	09
②	学群とキャンパスについて	09
③	学年及び休業日と、学期、時間割について	09
	（1）学年、学期及び休業日	09
	（2）時間割	09
④	学籍と在学期間について	10
	（1）学籍の異動	10
	（2）修業年限及び休学期間の限度、在学年限	10
⑤	単位について	11
	（1）単位の計算基準	11
	（2）卒業要件単位数	11
	（3）単位認定について	11
⑥	履修登録について	12
⑦	授業について	12
	（1）授業科目	12
	（2）シラバス(授業計画書)	12
	（3）授業への欠席及び遅刻	12
	（4）休講	12
	（5）補講	12
	（6）授業評価アンケートシステム nigala(ニガーラ)M1について	12
⑧	成績の評価方法について	13
	（1）試験	13
	（2）レポート・制作物等の提出方法	13
	（3）追試験	13
	（4）再試験	13
	（5）不正行為について	14
	（6）グローバルコミュニケーション科目の受験資格の認定について	14
	（7）成績発表について	14
	（8）GPA制度	14
	（9）学修状況チェックシステム alagin(アラジン)M1について	14
⑨	進級について	15
⑩	学類の決定・履修コースの選択について	15
	（1）学類の決定	15
	（2）履修コースの選択	15
⑪	転学群・転学類及びコース変更について	15
	（1）転学群・転学類について	15
	（2）コース変更について	15
⑫	卒業認定・学位授与について	16
⑬	学修支援について	16
	（1）教員に相談したいとき	16
	（2）職員に相談したいとき	16
	（3）学生相談室、保健室について	16
	（4）合理的配慮について	16
⑭	その他	17
	（1）大学からの連絡	17
	（2）学生保険について	17
	（3）経済支援について	17

III	履修登録	18
①	履修登録とは	18
②	履修登録の手順	18
	（1）事前作業	18
	（2）履修登録	18
	（3）履修登録修正	18
	（4）時間割の保存	19
	（5）履修登録取消期間	19
	（6）履修登録科目の確定	19
③	履修登録上の留意点	19
	（1）履修登録可能な単位数の上限	19
	（2）単位修得済み科目の履修登録の禁止	19
	（3）集中講義科目の日程確認	19
	（4）その他	19
④	科目ナンバリング	19
	（1）科目ナンバリングとは	19
	（2）付番方法	19
IV	全学共通科目 ほか	21
①	地域連携実践教育プログラムについて	21
	（1）地域連携実践教育プログラムとは	21
	（2）単位	21
	（3）プログラムの考え方および特色	22
	（4）履修方法および履修手続等	22
②	他学群・他学類履修、他大学等履修、 入学前既修得単位の単位認定について	24
	（1）他学群または他学類の履修について	24
	（2）単位認定に係る申請について	24
	（3）単位認定された授業科目の本学開講科目との振替について	24
	（4）振替できない科目の卒業要件単位数への算入について	25
	（5）単位認定を受けた授業科目の成績表記について	25
③	学都仙台単位互換ネットワーク 単位互換制度	26
	（1）学都仙台単位互換ネットワーク 単位互換制度とは	26
	（2）単位互換制度の申請方法	26
④	学外研修・グローバルインターンシップ	27
	（1）学外研修・グローバルインターンシップとは	27
	（2）科目の履修方法	27
V	基盤教育	31
①	フレッシュマンコアとは	32
②	基盤教育における9つの科目分野	34
	（1）導入科目	34
	（2）情報統計	34
	（3）芸術・人文学	34
	（4）人間科学	34
	（5）社会科学	34
	（6）グローバルコミュニケーション	34
	（7）自然科学	34
	（8）実践基礎	34
	（9）全学共通科目	34
③	留学生対象科目	35
④	教育課程の一覧	35

VI	食産業学群	37
①	食産業学群について	37
	（1）カリキュラムの特徴	37
	（2）食産業学群での学び	37
	（3）食産業学群、生物生産学類・フードマネジメント学類の教育目標	38
②	生物生産学類について	39
	（1）生物生産学類のカリキュラムの特徴	39
	（2）生物生産学類の卒業認定基準表	40
	（3）カリキュラムマップ	42
	（4）カリキュラム関連マップ	43
	（5）生物生産学類の科目配当表	44
	（6）生物生産学類の履修モデル	46
③	フードマネジメント学類について	51
	（1）フードマネジメント学類のカリキュラムの特徴	51
	（2）フードマネジメント学類の卒業認定基準表	52
	（3）カリキュラムマップ	54
	（4）カリキュラム関連マップ	55
	（5）フードマネジメント学類の科目配当表	56
	（6）フードマネジメント学類の履修モデル	58
④	関連資格	61

建学の精神

快い生活環境（アメニティ）に身を置き、心温まる人間関係（ホスピタリティ）に囲まれていることは成熟社会に生きる万人の願いであり、このような地域社会を実現させるために「ホスピタリティとアメニティの究明と実現」を目指す。

大学の理念

高度な実学に基づき、豊かな人間性、高度な専門性及び確かな実践力を身につけ、グローバルな視点で地域社会の発展に貢献できる人材を育成するとともに、学術・文化の向上と豊かで活力のある地域社会の形成に寄与する。

豊かな人間性	先人たちの考えや相手の価値観を尊重し、知性と感性を涵養することで自らの人間性を磨いていく。
高度な専門性	関連するあらゆる学問や技術に関心を寄せ、自らの専門性を高め、時々刻々と変化する社会にしなやかに、かつ、柔軟に対応できる力を身につける。
確かな実践力	地域に根ざし、グローバルな視点で自ら主体的に考え、強い意思を持って実践していく。

大学の目的

本学は、地域社会及び国内外の大学・研究機関等との自由かつ緊密な交流及び連携のもとに、看護、事業構想、食産業及びそれらの基盤となる学問に関する教育研究を行うことにより、学術文化の振興に資するとともに、豊かな人間性、高度な専門性及び確かな実践力を備えた人材を育成し、もって地域の産業及び社会の発展に寄与することを目的とする。

各学群の教育研究上の目的

看護学群	生命の尊厳を基盤とする豊かな人間力を備えて、科学的思考力とマネジメント能力をもち、ヒューマンケアを中核とした創造的な看護を展開し、地域社会及び多分野・異文化の人々と協働して学際的及び国際的に活躍できる人材を育成すること。
事業構想学群	現代社会の諸課題を多角的・グローバルな視点で論理的にとらえ、その課題解決に向けた事業を実行可能かつ持続可能なものとして構築する能力を身につけるとともに、豊かな人間性を基盤として地域資源の活用や新たな価値創造を志向し、産業、行政及び社会の各分野で先導的役割を担うことができる人材を育成すること。
食産業学群	生物資源の開発及び食材生産から食品製造・流通・消費に至るまでのフードシステムについて幅広い科学的知識と技術を持ち、豊かな人間性に基づいて食産業全体及び地域社会を理解し、東北地域から世界まであらゆるレベルで食の未来を開拓できる意欲と能力を有する人材を育成すること。

I . 宮城大学カリキュラムの全体像

1ー宮城大学の教育目標

宮城大学の理念、目的を踏まえ、主体性を持って協働的に行動し、社会の持続的な発展に貢献できる人材の育成を教育目標として定めています。

2ー宮城大学の教育基本方針（ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー）

(1) ディプロマ・ポリシーとは

宮城大学の教育目標に基づき、どのような力を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定めた基本的な方針を「ディプロマ・ポリシー」といいます。これは、学生の学修成果の目標ともなるものです。

ディプロマ・ポリシー
大学の理念の下に、各学群の教育目標(教育研究上の目的)を定め、それを構成する要素として以下の5点を掲げる。 ① 豊かな教養と自らの専門分野を体系的に理解する知識・技術 ② 課題を発見し問題解決に至る論理的な思考・判断力 ③ 自らの考えを適切に構成し他者に伝達する表現力 ④ 自ら学び続ける意欲と高い公共性や倫理観のもとで行動する実践力 ⑤ 他者とともに共通の目標に向かい行動する協働性 宮城大学では、これらに基づき各学群で求められる専門能力を修得した学生に卒業を認め、学位を授与する。

(2) カリキュラム・ポリシーとは

「ディプロマ・ポリシー」の達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定めた基本的な方針を「カリキュラム・ポリシー」といいます。

カリキュラム・ポリシー	
各学群で定める教育目標を実現するため、ディプロマ・ポリシーに掲げた5つの構成要素に基づき、以下の方針によりカリキュラムを体系的に編成・実施する。 ・豊かな人間性とともに基礎となる学力の形成を図る基盤教育科目と、専門的な知識と技能を修得する専門教育による体系的なカリキュラムを編成する。 ・授業は、知識を体系的に獲得する講義、その知識を実践的に修得する演習・実験・実習により実施する。また学生の主体的な学びを促進するための教育プログラムを各学群で実施する。 ・基盤教育科目は、将来にわたって明日の姿を見通すための力を身につける技法知・学問知・実践知を修得するための宮城大学共通の教育基盤として、以下の方針により編成する。また、基盤教育科目の中核として、将来の社会に求められる基礎力の養成と地域社会や情報技術の理解のためのフレッシュマンコア科目を置く。	
1 知識・技術	幅広い知識と技術を修得するため、社会科学、自然科学、芸術・人文学、人間科学、情報統計の諸種の学問領域における広範な知識・技術を修得するための科目群を置く。
2 思考力・判断力	科学的根拠に基づく論理的な思考・判断力を養成するために能動的な学修機会を積極的に設けるとともに、フィールドワーク等を通じて実践的な課題に取り組む学修機会を設定する。
3 表現力	自己表現の技術と他者とのコミュニケーション力を育成するために、発表や議論の場を積極的に設ける。また、グローバルコミュニケーション科目を通じて国際的なコミュニケーション力の育成を図る。
4 主体性	主体的に学び続ける力を養成するために、導入科目において自らの将来を踏まえ主体的に学ぶことの意義を理解するための教育を実施する。
5 協働性	他者との協働性を養成するために、導入科目を中心として協働的な活動を取り入れた教育を展開する。

※各学群・学類のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーは、各章の教育目標を参照してください。

3ー学群・学類について

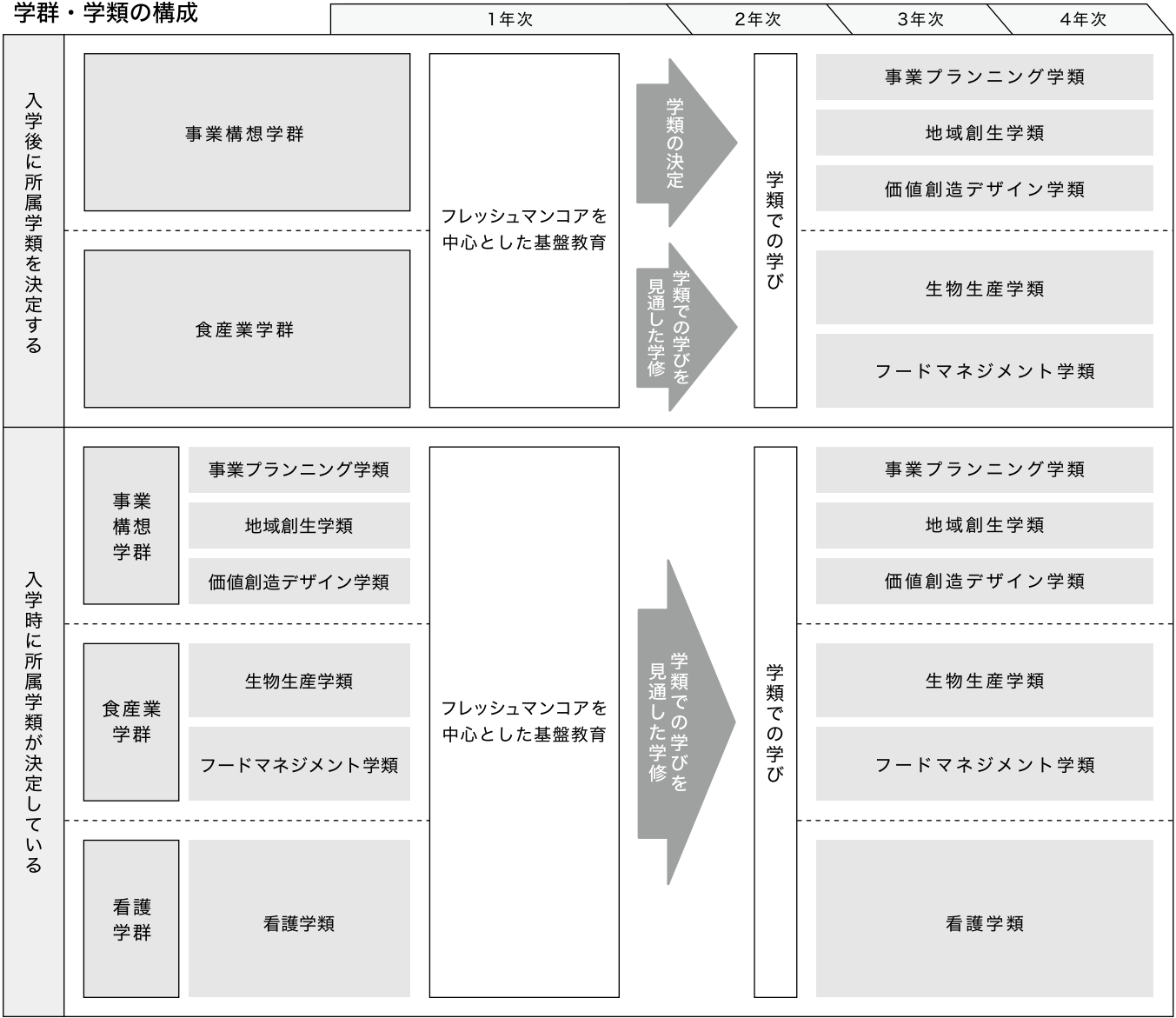
宮城大学は、学群・学類（3 学群・6 学類）により構成されています。

学群	学類
看護学群	看護学類
事業構想学群	事業プランニング学類 地域創生学類 価値創造デザイン学類
食産業学群	生物生産学類 フードマネジメント学類

看護学群では、入学時に所属する学類が決まっており、2年次からの学びを見通し、1年次から学修に取り組むことができます。また、事業構想学群及び食産業学群では、2年次に所属する学類が決定されます(総合型選抜及び外国人留学生特別選抜での入学生を除く)。入学後、1年間をかけてマッチングを行い、自分が進む学類を決定します。

※基盤教育・各学群・学類のカリキュラムの詳細は、各章のカリキュラムの特徴を参照してください。

学群・学類の構成



II．総論

ここでは、宮城大学における教育課程の修業に係る共通事項を説明します。これらの内容の詳細は、宮城大学学則、宮城大学履修規程及び宮城大学学位規程に記載されています。

1ー入学から卒業までの基本的な流れ

入学から卒業・学位授与までの基本的な流れは下図のとおりです。それぞれの段階で必要な手続きや申請がありますので注意してください。



2ー学群とキャンパスについて

宮城大学では、看護学群・事業構想学群・食産業学群及びそれぞれの研究科を設置しています。各学群は、以下のキャンパスに所在しています。

	宮城大学大和キャンパス	宮城大学太白キャンパス
設置学群	看護学群・事業構想学群及び研究科	食産業学群及び研究科
住所	〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑 1 番 地 1	〒982-0215 宮城県仙台市太白区旗立 2 丁目 2 番 1 号
電話	022-377-8205 (代表)	022-245-2211 (代表)

3ー学年及び休業日・学期・時間割について（学則第6条、第7条、第8条）

(1) 学年・学期及び休業日
本学の教育課程は、以下の日程で運用しています。また、学年を前期と後期にわけて単位認定を行う「前後期制」を採用しています。

	期間
学年	4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わります。
前期	4 月 1 日から 9 月 30 日まで
後期	10 月 1 日から 3 月 31 日まで
休業日	土・日・祝日・開学記念日 5 月 1 日
春季休業日	別に定める。(春季・夏季・冬季休業の日程は年度ごとに変更になる場合があります。当該年度の長期休業の日程は、学内ウェブサイトの「学年暦」を確認してください。)
夏季休業日	
冬季休業日	

※後期の授業開始日は、10月1日よりも前となる場合があります。
※なお、定期試験は、前期末・後期末に期間を定めて実施します。

(2) 時間割
授業は、前期・後期の期間内のうち、月曜日から金曜日まで、下表の時間割に沿って行われます。

時 限	1 時 限	2 時 限	3 時 限	4 時 限	5 時 限
時 刻	8：50	10：30	12：50	14：30	16：10
	}	}	}	}	}
	10：20	12：00	14：20	16：00	17：40

また、通常の時間割以外に、以下の開講形態があります。
①集中講義：夏季休業等の休業日に、集中的に授業を開講するものです。
②隔週開講：1 週おきに開講するものです。
③指定日開講：特定の日時に開講するものです。
その他、学外の実習等、通常の時間割以外の時間帯に授業を行う場合があります。

4 学籍と在学期間について（学則第18条、第19条、第21条、第23条、第24条、第26条）

学籍とは、本学に所属する学生であることを示す籍をいいます。

(1) 学籍の異動

本学に入学してから卒業するまでの間、通常通り修業する状況を「在学」として取り扱います。学生の申請や大学の決定により「休学」「転学」「退学」「除籍」として学籍を異動する場合があります。これら学籍の異動に必要な手続きは、MYUpediaを参照してください。

また、学籍の異動は、進級要件や卒業要件、授業料免除申請や奨学金の付与等に影響することがあります。



(MYUpedia)

(2) 修業年限及び休学期間の限度、在学年限

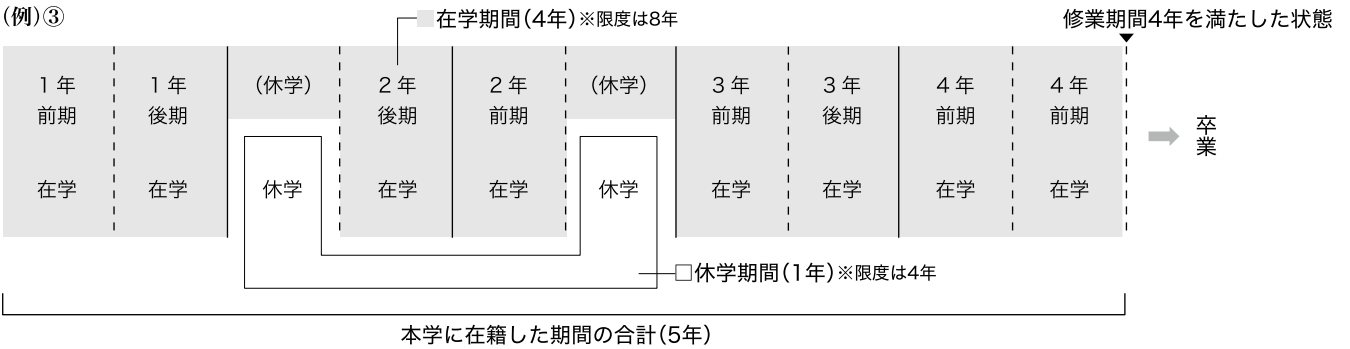
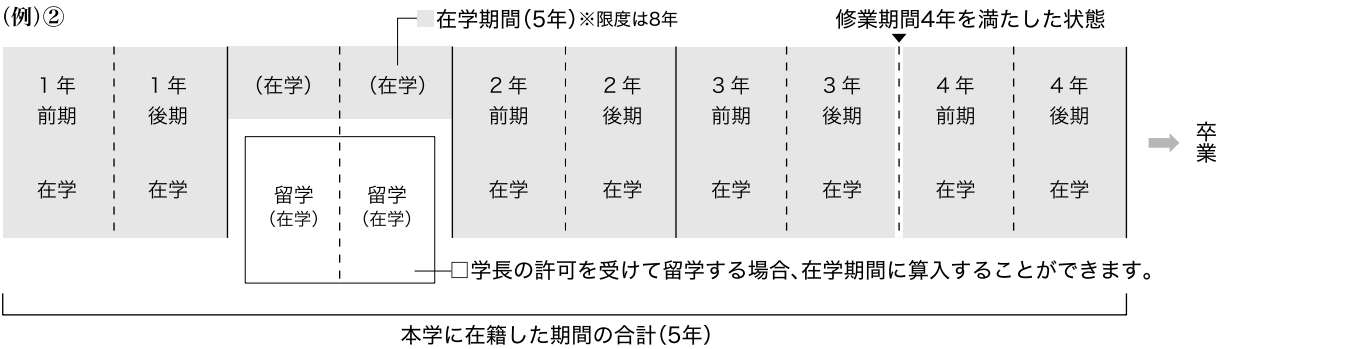
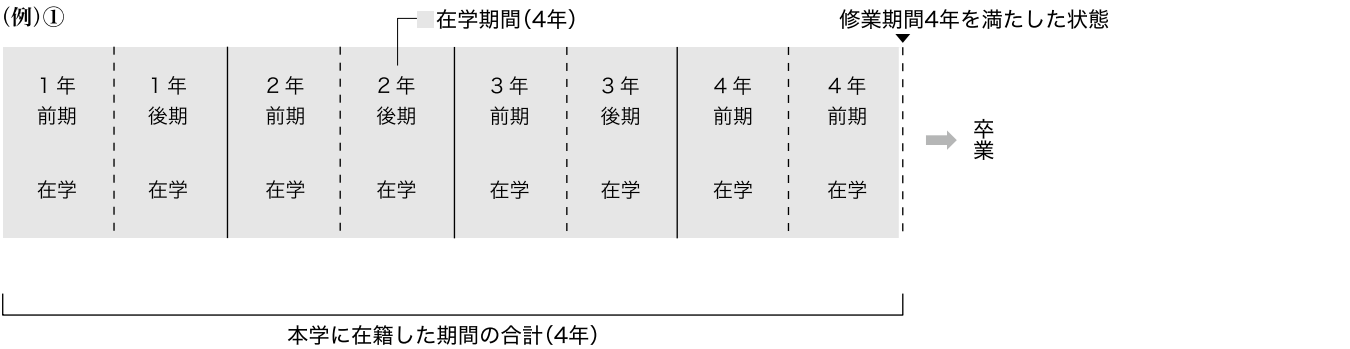
本学では、必要な修業の期間や、在学できる期間の限度を以下のとおり定めています。

- ・修業期間：修業した期間を「修業期間」といいます。
- ・修業年限：卒業までに修業すべき年数を定めています。
- ・在学期間：在学した期間を「在学期間」といいます。
- ・在学年限：在学できる年数です。在学年限を超えて在学することはできません。
- ・休学期間：休学した期間を「休学期間」といいます。休学期間は、修業期間や在学期間には含みません。

修業年限	在学年限	休学期間の限度
4 年	8 年	4 年

※引き続き 1 年を超えて休学することはできません。ただし、特別の理由がある場合は、学長の許可を得て休学期間を 2 年まで延長することができます。

※編入学・転入学・再入学・転学を許可された学生の在学期間及び在学年限については、関係規程により個々に定められます。



5 単位について（学則第34条、第35条、第36条、第37条、第38条、第39条、第40条、第41条、履修規程第15条、宮城大学他学群・他学類履修及び他大学履修に関する実施要綱）

単位とは、各科目の授業時間と学修の量を数値で示したものです。学群ごとに卒業に必要な単位数が定められており、個々の科目について所定の時間を履修し、試験その他の方法により合格と判定されたときに、はじめて修得できます。また、授業の開講形態（講義、演習、実習等）、開講時間数等により修得できる単位数が定められています。

(1) 単位の計算基準

授業科目「1 単位」は、「教室内における授業時間」と「事前・事後学修時間」とを併せて 45 時間の学修時間により構成されることを基準としています。また、講義、演習、実習等の授業の方法に応じ、概ね以下の授業時間及び単位数としています。

講義	1 時限（90 分）の授業 15 回と事前・事後学修で 2 単位
演習	1 時限（90 分）の授業 15 回と事前・事後学修で 1 単位 (2 時限構成の場合 2 単位)
実験・実習・実技	2 時限（180 分）又は 3 時限（270 分）の授業 15 回で 1 単位とします。 実験・実習と講義の併用は、2 時限分の授業 15 回と事前・事後学習で 2 単位とします。

(2) 卒業要件単位数

卒業するためには、前述の修業年限を満たした上で、各学群で定める所定の卒業要件単位数を修得しなければなりません。必要単位数は下表のとおりです。

	看護学群	事業構想学群	食産業学群
卒業要件単位数	128単位	127単位	132単位

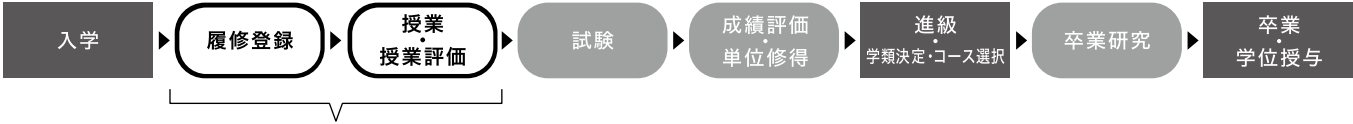
遠隔授業により修得する単位数は、60単位を超えない範囲で卒業要件として修得できます。

(3) 単位認定について

合格した科目の単位は、前期末・後期末に認定されます。集中講義については、開講時期に応じて、通常の科目と単位認定時期が異なる場合がありますので注意してください。なお、前期・後期の途中で退学・休学・除籍をした場合、その期に履修している科目の単位は認定されません。

また、他学群・他学類の授業科目の履修を希望する場合は、学長の承認を得て、60単位を超えない範囲で単位を修得することができます。他の大学又は短期大学における授業科目の履修、大学以外の教育施設における学修、入学前の既修得単位についても、申請・審査のうえ、学長が教育上有益と認められる場合、他学群・他学類の授業科目で修得した単位数と合わせて60単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したもののみなすことができます。

これらの他学群・他学類履修、他大学等履修、入学前単位の履修・単位認定に係る申請や、本学開講科目との振替、卒業要件単位への参入などについては、詳細をP24（IV全学共通科目ほか）に記載しています。



6 履修登録について（履修規程第3条、第4条、第5条）

授業に出席し、所定の単位を修得するためには、履修登録が必要です。履修登録の手順の詳細はP18(III履修登録)に記載しています。

7 授業について

(1) 授業科目

授業科目には、講義、演習、実験・実習、実技があり、必修科目、選択必修科目、選択科目に大別されます。卒業要件として、これらの科目の修得単位数をそれぞれ定めています。

必修科目	学群、学類、コースにおいて、その教育目的を達成するために、修得が義務づけられている科目です。修得が進級要件に含まれる場合があります。
選択必修科目	指定された科目群の中から、学生が一定数の科目を選択して修得することが義務づけられている科目です。修得が進級要件に含まれる場合があります。
選択科目	学生の自由選択により履修することができる科目です。

(2) シラバス（授業計画書）

- 授業科目毎の授業内容を明示した授業計画等を「シラバス(syllabus)」といいます。
- シラバスには、授業科目の授業概要、授業計画、評価方法などが簡潔に説明されています。
- 「学務管理システム」で参照することができます。
- シラバスは、履修登録の際や、履修の過程において、授業の目的や、全体の流れを確認することに活用してください。



〈学務管理システム〉

(3) 授業への欠席及び遅刻

- 単位の修得には、授業への出席が必要です。
- 一定の出席時間に満たない場合は、試験の受験資格を喪失します。
 - 欠席届や忌引の取扱いはありません。欠席及び遅刻に対する取扱いは担当教員が判断します。
 - 学校感染症（新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等）と診断された、または、その疑いがあると診断されたら、出席停止となります。出席停止の扱いを受けるためには、所定の手続きが必要です。詳細についてはMYUpediaを参照してください。

(4) 休講

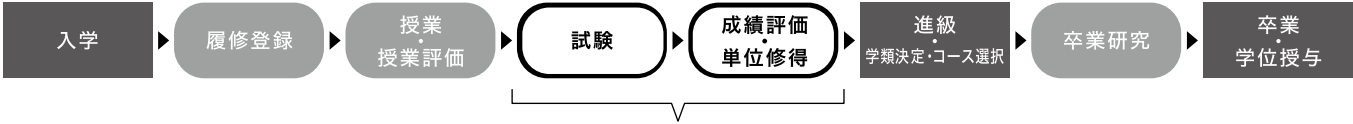
授業が休止になることを休講といいます。休講は、学務管理システムや学内メールで連絡します。
※休講は担当教員の都合による他、気象状況や自然災害等による場合があります。 気象状況や自然災害等による休講・試験の延期については、P17に記載されています。

(5) 補講

補講は、休講等により授業時間が不足し、所定の内容が修得しきれないと教員が判断した場合に行われます。補講の有無は、授業中にアナウンスされるほか、休講の連絡方法と同様の方法で連絡します。

(6) 授業評価アンケートシステム nigala（ニガーラ） M1について

nigalaM1(Network system Information Guiding Achievement and Learning Academic)は、学生による授業評価アンケートの回答、教員による確認できるシステムです。
アクセスする際は、ログインページのURL(https://achievement.myu.ac.jp/am1)に直接アクセスしてください。
詳しくは、alagin/nigalaM1利用マニュアルを参照してください。本学では、授業をより充実したものに改善することを目的に学生による授業評価アンケートを実施しています。学期末に学内メール等で案内されますので、履修した科目について回答してください。



8 成績の評価方法について（学則第30条、第36条、履修規程第7条、第8条、第9条、第10条、第11条）

授業科目における成績は、シラバスで示された授業の到達目標に対する学生の学修到達度によって下表のように評価されます。「秀」「優」「良」及び「可」を合格として単位が付与されます。学修到達度は、その授業の開講時期の末に期間を定めて行う試験によって評価されます。

なお、必修科目について成績の評価が「不可」となり、単位を修得できなかった場合は、次年度以降に再履修を行い、単位を修得する必要がありますので注意してください。

評価	評点	学修到達度との関係
秀	90点以上	学修到達度が特に優秀な水準で到達目標に達している。
優	80点以上90点未満	学修到達度が優秀な水準で到達目標に達している。
良	70点以上80点未満	学修到達度が良好な水準で到達目標に達している。
可	60点以上70点未満	学修到達度が到達目標に達している。
不可	60点未満	学修到達度が到達目標に達していない。

(1) 試験（履修規程第7条）

期末試験は、筆記試験、口述試験、実技試験又は実験、実習、課題レポートにより行います。受験の際は、学生証を机上に提示することで本人確認を行いますので、学生証を必ず持参してください。下表の内容に該当する場合は、試験を受けることができませんので注意してください。

①	履修登録をしていない学生。
②	出席時間が授業時間の5分の4に満たない学生。
③	試験時刻に20分を超えて遅参した学生。

期末試験の日程は、試験期間前に、学務管理システムや学内メールでお知らせするとともに、MYUpediaにも掲載します。

(2) レポート・制作物等の提出方法

レポート・制作物等を提出する際は、次の点に注意してください。

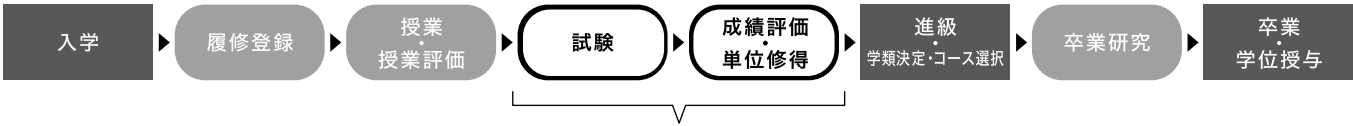
提出方法	担当教員により、提出場所や方法の指示がなされますので、指示に従ってください。 また、提出期限を必ず守って、所定の場所に提出してください。 下記のレポートボックスへ提出が指示される場合があります。	
	[大和キャンパスレポートボックス] ※本部棟3階及び4階、研究ラウンジ受付に設置	[太白キャンパスレポートボックス] ※管理棟1階事務局入口付近に設置
	※誤って他の科目のレポートボックスに投函されたレポートは、提出期限後に未提出扱いとして本人に返却します。	
記載事項	① 所属学群・学類・コース、② 学籍番号、③ 氏名、④ 授業科目名、⑤ 担当教員名を記載してください。 その他担当教員から指示された事項があれば記入してください。 氏名等が未記入の場合は、評価の対象となりませんので注意してください。	

(3) 追試験（履修規程第9条）

所定の試験に欠席した学生に対する追試験は実施しません。ただし、病気その他特別の理由によりやむを得ず受験できなかった学生に対しては、本人からの願出により追試験を行うことがあります。追試験の申請は、試験終了後1週間以内に、所定の様式により申請を行い、担当教員の承認を得る必要があります。様式や添付書類等は、MYUpediaを参照してください。

(4) 再試験（履修規程第10条）

試験を受験して不合格になった学生に対する再試験も実施しません。ただし、試験終了後に教授会等が必要と認めた場合は実施されることがあります。なお、再試験の成績評価は可が上限となります。



(5) 不正行為について（学則第30条、履修規程第11条）

試験において不正行為をした学生に対しては、当該学期に登録しているすべての履修科目の成績が不可となるほか、学則による懲戒処分を行います。
※授業の出席に関し虚偽申告を行った学生に対しては、当該科目の成績評価は不可となるほか、その不正行為の状況によっては、学則により懲戒処分を行うことがあります。

(6) グローバルコミュニケーション科目の受験資格の認定について

基盤教育の「グローバルコミュニケーション科目」では、学外の検定試験等において所定の条件を満たした場合、申請・審査の上、授業の出席が一部免除されることがあります。ただし、学外の検定試験等については、申請日以前の2年以内に受験したものと
なるほか、出席を一部免除された場合でも、定期試験は必ず受験する必要がありますので注意してください。
詳しくは「グローバルコミュニケーション科目」の専任教員へお問合せください。

(7) 成績発表について

授業科目における成績の評価については、前期は9月末、後期は3月末に学修状況チェックシステム alaginM1で確認することができます。(詳細は「(9)学修状況チェックシステム alaginM1について」を参照)。また、評価の内容は成績証明書に反映されます。
※「不可」の評価となった科目に限り、今後の学修に資するため、成績発表日を含む10日間(土日祝含まず)のみ、成績質問を受け付けます。
成績質問は、MYUpediaから所定の様式を取得し、提出してください。

(8) GPA制度

本学では、GPA制度を採用しています。GPA(グレードポイント平均値)とは、各授業科目の評点に基づきGP(グレードポイント)を付与して算出する、1単位あたりの平均値です。GPは次の式により求めた値とします。
GP=(評点-55)/10ただし、GP<0.5はGP=0.0とする。

・学修状況および成果を示す指標として「学期GPA」「年度GPA」「通算GPA」の3種類を設定しています。計算式は以下としており、小数点第3位以下を切り捨てて表記しています。

①学期GPAの計算式

学期GPA =
$$\frac{\text{(その学期に評価を受けた科目で得たGP} \times \text{その科目の単位数)の合計}}{\text{その学期に評価を受けた科目の単位数の合計}}$$

②年度GPAの計算式

年度GPA =
$$\frac{\text{(その年度に評価を受けた科目で得たGP} \times \text{その科目の単位数)の合計}}{\text{その年度に評価を受けた科目の単位数の合計}}$$

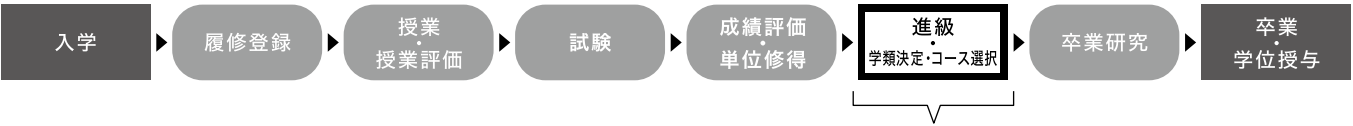
③通算GPAの計算式

通算GPA =
$$\frac{\text{(各学期に評価を受けた科目で得たGP} \times \text{その科目の単位数)の合計の総和}}{\text{(各学期に評価を受けた科目の単位数の合計)の総和}}$$

- ・GPAは、卒業要件となる授業科目に含まれるものを対象科目としています。以下の科目はGPA対象科目に含まれません。
 - ア) 編入学または転入学した際の単位認定科目
 - イ) 本学入学前に修得した単位認定科目
 - ウ) 他大学等との単位互換等で修得した科目
- ・履修登録した科目を放棄すると、科目の成績は「不可」となり通算GPAに算入されます。履修を取り消す場合は、必ず履修取消期間中に所定の手続きを行ってください。

(9)学修状況チェックシステム alagin(アラジン)M1について

alaginM1 (Academic Learning and Achievement Guiding Information Network system) は、成績GPA、履修単位数などの学修状況をいつでも確認できるチェックシステムです。
アクセスする際は、ログインページのURL (https://achievement.myu.ac.jp/am1) に直接アクセスしてください。
詳しくは、MYUpediaにあるalagin/nigala M1利用マニュアルを参照してください。なお、毎学期末に行われる授業評価アンケート実施期間中はそのアンケートに回答した後にalaginM1にアクセスできるようになっています。



9ー進級について（履修規程第12条）

	看護学群	事業構想学群・食産業学群
全年度共通	配当年次において未修得の必修単位が通算（※）6単位以下であること。 （複数の年次で配当されている科目は、上級年次が配当年次） （※）通算とは、入学時からの累積	
2年度進級要件	卒業要件単位数のうち30単位以上を修得していること。	
3年度進級要件	卒業要件単位数のうち64単位以上を修得していること。 1・2年次に開講されている必修の専門教育科目の単位をすべて修得していること。	卒業要件単位数のうち64単位以上を修得していること。
4年度進級要件	卒業要件単位数のうち96単位以上を修得していること。 3年次に開講されている実習(母性、小児、成人、老年、精神、地域、在宅、看護マネジメントの8つの領域)の単位をすべて修得していること。	卒業要件単位数のうち96単位以上を修得していること。 ※事業構想学群及び食産業学群は、加えて3年次に開講されている卒業研究科目の単位を修得していること。

10ー学類の決定・履修コースの選択について（学則第21条、履修規程第13条、第14条）

(1) 学類の決定

入学時に学類が決定していない学生は、1年度末までに所定の方法により所属する学類が決定されます。学類毎に定員を設定していますので、必ずしも希望する学類に所属できるとは限りません。学類の決定方法等については、ガイダンス等で案内されます。

(2) 履修コースの選択

事業構想学群価値創造デザイン学類では、専門性の高い科目を学べるよう履修コースを設けていますので、履修コースの届出時期までに希望するコースの届出を行ってください。

学群	学類	履修コース	届出時期
事業構想学群	価値創造デザイン学類	感性情報デザインコース 生活環境デザインコース	2年度前期（4月）の所定の期日まで

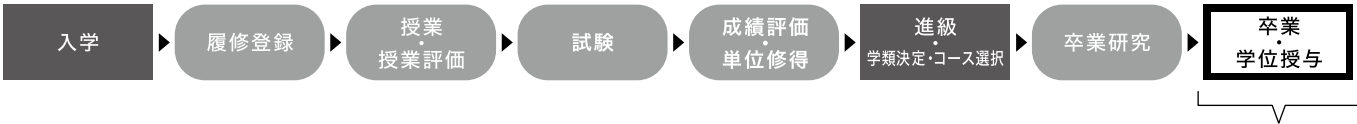
11ー転学群・転学類及びコース変更について

(1) 転学群・転学類について（学則第22条、転学群及び転学類に関する規程）

諸事情により転学群・転学類を希望する場合、後述するクラス担当教員等に相談してください。転学群及び転学類の選考は、原則として欠員のある場合に限り行います。また、新たな転学類等を受け入れるかどうかは、教育上の支障の有無を勘案した上で判断するので、毎年度必ず選考が行われるとは限りません。詳細は、MYUpediaにある「宮城大学転学群及び転学類に関する規程」で確認してください。

(2) コース変更について（履修規程第14条）

選択した履修コースの変更を希望する場合は、所属する学群の学群長の許可が必要となります。手続き方法や時期等については、後述するクラス担当教員等に確認してください。



12 卒業認定・学位授与について（学則第41条）

修業年限を満たし、各学群で定める卒業要件を満たした学生は、卒業が認定され、学位が授与されます。各学類を修了した者に授与される学位は下表のとおりです。

	学類	学位
看護学群	看護学類	学士（看護学）
事業構想学群	事業プランニング学類	学士（事業プランニング学）
	地域創生学類	学士（地域創生学）
	価値創造デザイン学類	学士（価値創造デザイン学）
食産業学群	生物生産学類及びフードマネジメント学類	学士（食産業学）

13 学修支援について

学修や進路上、学生生活の悩みや不安などがある場合、以下にご相談ください。
なお、非常勤講師への学修上の相談や質問は、非常勤講師の来学時に行ってください。

（1）教員に相談したいとき

スタートアップセミナーⅠ、Ⅱの担当教員が窓口となって相談を受け付けます。担当教員以外の教員も受け付けますが、業務上、各教員の都合がつかない場合もありますので、各教員へメール等で事前連絡の上、相談してください。

（2）職員に相談したいとき

事務局の窓口が利用できる時間帯は、平日8：30～17：50です。事務職員への相談や書類等の提出は、事務局窓口が利用できる時間帯で行ってください。

（3）学生相談室、保健室について

- ・保健室：大学構内でのケガや体調不良については、保健室で対応することが可能です。
- ・学生相談室：カウンセラーが常駐し、対人関係、こころの健康、生活全般、学業・進路など、学生生活における困りごとをはじめ、様々な相談ができる場所です。費用は無料で、プライバシーは厳守されます。
- ・利用時間はMYUpediaで確認してください。



〈MYUpedia〉

（4）合理的配慮について

合理的配慮とは、障がいや持病を有する学生に、大学での学修を進める上で必要な配慮を行い、障壁（バリア）となるものを除去することを意味します。障がいや持病の有無にかかわらず、すべての学生が、公平で平等に学修を進めることができるようにするためです。合理的配慮を希望する場合は、スチューデントサービスセンター（事務局）に相談してください。

14 その他

（1）大学からの連絡

学内行事、集中講義などで連絡事項が発生した場合や、学生生活に関する重要なお知らせは、学内メールで周知する場合がありますので、学内メールを確認してください。
また、学内メールの他、学務管理システム(<https://gakumu.myu.ac.jp>からログイン)やMYUpediaを通じて連絡を行うことがあります。



〈MYUpedia〉 〈学務管理システム〉

【1】自然災害等による遠隔授業・休講への切り替えの基準

下記の気象状況や自然災害等により学生及び教職員の通学・通勤が困難な場合や困難になると想定される場合は、安全確保のため遠隔授業への切り替えまたは休講措置を行います。

- ① 以下の時点において、仙台市又は大和町に大雨・洪水・暴風・大雪・暴風雪のいずれかの「警報」が発令され、スチューデントサービスセンター長（SSC長）及び副センター長が遠隔授業への切り替え又は休講が必要と判断した場合（JR在来線（東北本線・常磐線・仙山線・仙石線）の仙台駅を含む区間の運休又は運転見合わせや仙台市立小中高校の休校を目安として判断します。）

原則、前日16時又は17時の時点：翌日授業を『遠隔授業』又は『休講』とする

（気象庁の発表に合わせて時間は前後する場合がある）

※実験・実習、インターンシップ等遠隔授業への切替が困難な科目の実施有無については、当該基準に準じ、各担当教員（看護学実習の場合は学群長又は実習ワーキンググループ長）の判断によります。各学群より学生への周知を行ってください。

- ② 上記のほか、学長及びSSC長が学生の安全確保のため必要があると判断した場合

なお、前日時点で「対面授業」と判断した場合も、天候の急変等により、遠隔授業または休講へ切り替える場合があります。

【2】休講の基準

予め予想できない自然災害等が発生した場合や、遠隔授業による授業実施も困難な状況の場合は、休講について判断するものとします。

午前7時の時点 ：当日、午前の授業（1・2限） 『休講』
午前10時の時点：当日、午後の授業（3～5限） 『休講』

上記のほか、学長及びスチューデントサービスセンター長が学生の安全確保のため必要があると判断した場合学外ウェブサイト、メールなどによって周知されます。

（2）学生保険について

学内外で教育研究活動中、実習中、通学途中、サークル活動中などに発生した傷害事故（自分自身のケガ）・賠償事故（他人にケガをさせたり、他人の物を壊したりした場合の補償）に備えるため、入学時に学生保険に加入しています。詳細は、MYUpediaの「生活支援」に記載していますので、参照してください。

（3）経済支援について

授業料の納付や、減免等申請、奨学金に係るお知らせなどは、MYUpediaに記載していますので参照してください。

III. 履修登録

ここでは、履修登録に係る手続きについて説明します。これらの内容の詳細は履修規程で定められています。

1 履修登録とは（履修規程第3条）

授業に出席し、所定の単位を修得するためには、定められた期間内に履修登録を行う必要があります。計画を立て、確実に卒業要件を満たすように履修登録を行ってください。履修登録に関する情報は、MYUpediaに掲載します。

本学では、履修登録に学務管理システムを利用します。



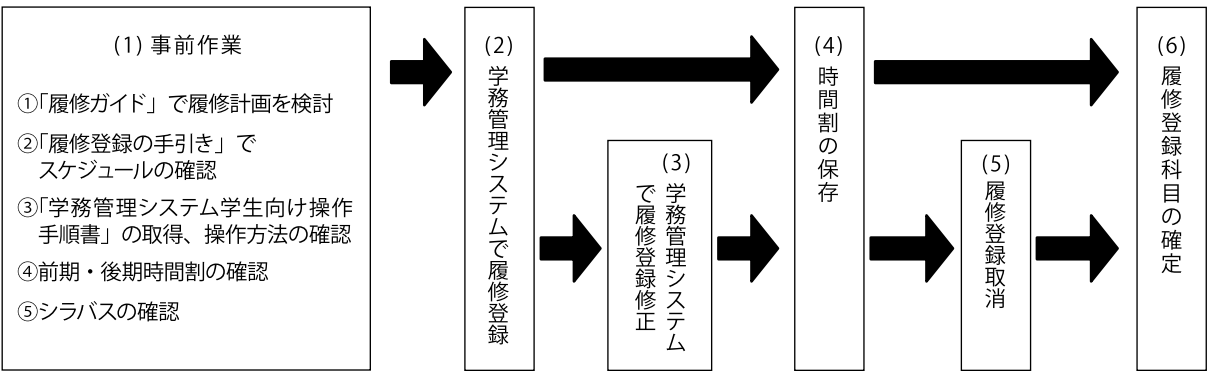
（MYUpedia）



（学務管理システム）

2 履修登録の手順

履修登録の手順は、下図のとおりです。



(1) 事前作業

- ①「履修ガイド」で履修計画を検討
「履修ガイド」には、各学群のカリキュラムの他、年次科目の詳細が記載されています。自分の希望する進路に合わせて、履修計画を検討してください。
- ②「履修登録の手引き」でスケジュールの確認
「履修登録の手引き」には、履修登録に係る詳細のスケジュールなど、重要な情報が記載されていますので必ず確認してください。
- ③「学務管理システム学生向け操作手順書」の取得・確認
MYUpediaに「学務管理システムの操作手順書」が掲載されます。基本的な操作手順が記載されていますので、確認してください。
- ④時間割の確認
MYUpediaに、当該年度の前期・後期の時間割が掲載されます。同日・同じ時限に開講されている科目は同時に履修できませんので、注意してください。
- ⑤シラバスの確認
学務管理システムから授業科目のシラバスを確認することができます。シラバスには、授業科目の授業概要、授業計画、評価方法、ナンバリング（詳細はP19「4 科目ナンバリング」を参照）などが簡潔に説明されていますので参考としてください。

(2) 履修登録

定められた期間内に学務管理システムで履修登録の操作をしてください。選択された内容は、学務管理システムの「時間割」で確認することができます。また、後期に開講する科目についても前期の履修登録期間に履修登録を行う必要がありますので注意してください。

(3) 履修登録修正

履修登録の内容を修正したい場合、定められた期間内であれば、学務管理システムから登録内容を修正することができます。後期科目については、後期授業開始後に同様の修正期間を設けます。

(4) 時間割の保存

履修登録が行われたことを確認するため、最終的な登録結果として、時間割を保存してください。

(5) 履修登録取消

定められた期間内であれば、履修登録を取り消すことができます。履修登録を行った科目は自己都合で受講を取りやめても「不可」として評価され、GPAに反映されます。履修の意思がない場合は、定められた期間内に履修登録の取り消しを行ってください。

(6) 履修登録科目の確定

履修登録に係る所定の手順を終えると、最終的な登録内容が学務管理システムの時間割で確認できます。登録内容が(4)で保存した時間割と異なっている場合は、事務局に連絡してください。

3 履修登録上の留意点（履修規程第4条、第5条）

(1) 履修登録可能な単位数の上限

本学では、履修登録できる単位数の上限を定めています。

	履修登録単位数の上限
1～4年次	各年次における履修登録単位数の上限は、年間49単位まで
※ただし、以下の科目の単位数は、履修登録単位数の上限には含まれません。 ・各学群の卒業要件に含まない科目 ・春季休業日、夏季休業日及び冬季休業日に開講される集中講義等の科目 ・他大学又は短期大学から履修を許可された科目のうち、教授会が特に必要と認めた場合	

(2) 単位修得済み科目の履修登録の禁止

一度単位を修得した科目は、再度履修登録を行うことはできません。

(3) 集中講義科目の日程確認

集中講義科目を2科目以上履修する場合は、日程が重複していないかどうかを十分確認した上で履修登録してください。

(4) その他

履修登録期間中には、履修登録に係る連絡事項が伝えられますので、学務管理システム、MYUpedia学内メールを確認してください。

4 科目ナンバリング

(1) 科目ナンバリングとは

学びの分野や順序等を表す番号を科目に付け、教育課程の体系性をわかりやすく明示する仕組みです。授業の性格、位置づけ等を明示していますので、科目履修の際の参考としてください。

(2) 付番方法

原則として学類ごとに、科目に固定して付番しています。同一科目でも、所属学類が異なると番号が異なります。なお、授業科目の見直し等により再付番する可能性があります。本学における科目ナンバリングは次の構成とします。

AB - CDEF 1 01
① ② ③ ④ ①学群・学類コード ②学問分野コード ③配当年次 ④順序番号

※コード表は、MYUpediaで参照できます。

例) 科目名「スタートアップセミナーI」のナンバリングFA-INTR101は以下の内容を表します。

学群・学類コード: 基盤教育群(FA) 学問分野コード: 導入科目[Introductory Subjects](INTR) 配当年次: 1年次(1)

順序番号: ①～③の付番が同じ組合せとなるグループの中で1番目に位置づけ(01)

IV. 全学共通科目ほか

1ー地域連携実践教育プログラムについて

(1) 地域連携実践教育プログラムとは

地域の歴史・文化・資源を活かしたコミュニティづくりや、地域の人々と共に課題解決ができる人材の育成を目指し、宮城大学と兵庫県立大学が連携して構築・推進している教育プログラムです。このプログラムでは、地域コミュニティの現場に触れ、自らの目で見・聞いて・体験し、学習することで、地域の人々と共に考えながら、地域本来の良さを活かした、これからのコミュニティづくりの提案を行える技能の習得を目指しています。

(2) 単位

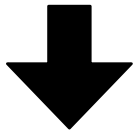
必修科目は、コミュニティ・プランナー（CP）基盤科目である基盤教育科目の「地域フィールドワーク」1科目1単位、コミュニティ・プランナー開講科目の「コミュニティ・プランナー概論および演習」「コミュニティ・プランナー実践論」「コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習Ⅰ」「コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習Ⅱ」の4科目6単位。また、選択科目として、各学群既存科目である「コミュニティ・プランナー関連科目」のうち2領域以上から7科目13単位以上を履修します。合計20単位以上を履修することで宮城大学・兵庫県立大学「コミュニティ・プランナー育成プログラム」の運営に関する覚書に基づき、卒業時に『コミュニティ・プランナーアソシエイト』の称号及び証書が授与されます。

＜コミュニティ・プランナー（CP）プログラム科目構成＞

コミュニティ・プランナー基盤科目（5科目7単位）+コミュニティ・プランナー関連科目（7科目13単位以上）＝計20単位以上



※看護学群生が、CP開講科目の「CP実践論」「CPフィールドワーク演習Ⅰ」「CPフィールドワーク演習Ⅱ」を履修する際には、他学群履修の扱いとなります。



『コミュニティ・プランナー アソシエイト』称号及び証書 授与

＜CP概論および演習＞

地域社会で活躍する専門家と連携したグループ演習により、現地調査の方法、ワークショップの運営、意見のまとめ方など、フィールドワークの基本的技能の習得を目指します。

＜CP実践論＞

実践者・専門家の講義やフィールドワークを通じた事例分析により、CPとしての知識・理解を深めます。

＜CPフィールドワーク演習Ⅰ・Ⅱ＞

コミュニティ再生の実践的経験を通して、CPとしての職能を理解しながら様々なステークホルダーとの協働手法や地域課題解決手法の習得を目指します。

(3) プログラムの考え方および特色

①GREENの視点

持続可能(サステイナブル)な地域コミュニティを構築し、維持してゆくためには、緑ある環境をベースにして、人、植物、動物、すべての生命(いのち)がつながり、関わり合うことが必要です。本プログラムでは、このような、すべての生命(いのち)のつながり、関わりを意味するものを「GREEN」と呼びます。「GREEN」は花や樹木などの植物だけでなく、「みどり色」の持つイメージそのものを指し、光り輝く緑からイメージできる生命(いのち)の輝き、人びとが集い、笑顔があふれる地域社会など、持続可能な地域社会を支える新しい視点です。

②ステークホルダーと連携したフィールドワーク

カリキュラムは主に「講義＋フィールドワーク(実践)」の形式を取り、フィールドでの実践を通して講義での学びを深めていきます。また、第一線で活躍する専門家と共に学ぶことのできる実践的な科目構成となっています。自治体や企業・NPO等の地域社会のステークホルダーと連携したフィールドワークを取り入れることで、コミュニティから求められている企画力やファシリテーション能力、プレゼンテーションや実行力といった社会に貢献できる能力を育成します。

(4) 履修方法および履修手続等

①履修方法

通常の履修登録と同様に学務管理システムで行ってください。履修登録の際は、別冊で配布される「履修登録の手引き」をよく確認してください。

②履修登録単位数の上限と卒業要件単位への算入

履修登録単位数には上限があります。P19「3(1)履修登録可能な単位数の上限」を確認してください。なお、卒業要件単位に入らない科目は、履修登録単位の上限からも除外されます。

全学群(看護学群、事業構想学群、食産業学群)において、基盤教育科目「地域フィールドワーク」と「コミュニティ・プランナー概論および演習」が卒業要件単位として認められ、前期の履修登録単位数に含まれます。「コミュニティ・プランナー実践論」「コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習Ⅰ」「コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習Ⅱ」は卒業要件単位には入りません(地域創生学類を除く)。

③看護学群生による履修

看護学群生が、コミュニティ・プランナー開講科目の「コミュニティ・プランナー実践論」「コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習Ⅰ」「コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習Ⅱ」を履修する際には、他学群履修の扱いとなります。P24「2(1)他学群又は他学類の履修について・(2)単位認定に係る申請について」を確認してください。

④コミュニティ・プランナー関連科目

コミュニティ・プランナー関連科目については、各学群学類で開講している既設科目の履修となります。他学群・他学類にて開講している科目を履修する場合には、学群学類毎に履修要件が異なります。詳しくは「宮城大学他学群・他学類履修及び他大学等履修に関する実施要綱」を確認してください。

※コミュニティ・プランナー関連科目は、各シラバス・時間割どおりに開講されますので、別キャンパスの科目を履修する場合はキャンパス間の移動時間等に注意して履修登録を行ってください。

別表 コミュニティ・プランナー(CP)関連科目(2領域以上、7科目13単位以上を修得)

領域	科目名	開講年次	単位数	開講学類	科目名	開講年次	単位数	開講学類
グリーンケア	人間発達学	1前	2	看護	地域資源論	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	人間関係論	1後	2	看護	地域社会学	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	臨床心理学	1後	2	看護	コモンズデザイン論	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	災害活動論	1後	2	看護	地域医療福祉政策論	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	ライフステージ看護学概論Ⅰ (全学群の学生履修可)	1後	2	看護	地理情報分析	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	ライフステージ看護学概論Ⅱ (全学群の学生履修可)	2前	2	看護	ツーリズムデザイン	3後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	地域看護学概論	2前	2	看護	食農素材化学	2前	2	生物生産
	地域学	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	食品衛生学	3前 2前	2	生物生産 フードマネジメント
	行政学	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	動物生殖学	2後	2	生物生産
	地域調査法	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	生理学	3前	2	生物生産 フードマネジメント
	社会調査法	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	栄養科学	3前	2	生物生産 フードマネジメント
	公共経営	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	フードコミュニケーション	3後	2	生物生産 フードマネジメント
	コミュニティビジネス	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	食品の安全性管理	3後	2	生物生産 フードマネジメント
グリーンデザイン	地域分析学	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	ライフステージ栄養学	4前	2	フードマネジメント
	計28科目							
	地域学	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	コモンズデザイン論	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	行政学	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	災害の科学(水)	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	地域調査法	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	地域環境政策	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	国土・地域計画	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	地理情報分析	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	災害の科学(土)	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	風土・伝統デザイン	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	防災計画	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	ビジネスプロセス論	3後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	都市と文化	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	農業農村振興論	3後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	社会調査法	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	景観工学	3後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	公共経営	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	ツーリズムデザイン	3後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	コミュニティビジネス	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	地区・街区計画	3後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	地域分析学	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	サステイナブルデザイン	4前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン
	都市計画	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	地域食産業論	2後	2	生物生産 フードマネジメント
	地域プロジェクトマネジメント	2集中	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	アグロテクノロジー	2後	2	生物生産 フードマネジメント
	地域資源論	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	環境科学	3前	2	生物生産 フードマネジメント
	地域社会学	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	食産業政策論	3前	2	生物生産 フードマネジメント
	ユーザビリティ	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	フードコミュニケーション	3後	2	生物生産 フードマネジメント
	CSR・CSV	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	食品の安全性管理	3後	2	生物生産 フードマネジメント
グリーンビジネス	グローバル共生論	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	食文化論	4前	2	フードマネジメント
	交通計画	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	計37科目			
	公衆衛生学	1後	2	看護	食品マーケティング基礎	2後	2	生物生産 フードマネジメント
	地域活性化とビジネス	1後	1	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	地域食産業論	2後	2	生物生産 フードマネジメント
	地域学	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	施設園芸学	2後	2	生物生産
	行政学	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	アグリビジネス論	2後	2	生物生産
	地域調査法	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	食材生産経営学	2後	2	生物生産
	地域企業論	2前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	畜産食品学	2後	2	フードマネジメント
	社会調査法	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	水産食品学	3後 2後	2	生物生産 フードマネジメント
	公共経営	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	食料・農業・農村政策	3前	2	生物生産 フードマネジメント
	コミュニティビジネス	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	露地園芸学	3前	2	生物生産
	地域分析学	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	ローカルフードシステム論	3前	2	フードマネジメント
	地域資源論	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	食産業政策論	3前	2	生物生産 フードマネジメント
	地域社会学	2後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	付加価値食材生産法	3後	2	生物生産
	コモンズデザイン論	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	暮らしと作物	3後	2	生物生産 フードマネジメント
	地域産業政策	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	動物生産管理学	3後	2	生物生産
	地理情報分析	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	現代食農ビジネス論	3後	2	生物生産 フードマネジメント
	社会起業論	3前	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	フードコミュニケーション	3後	2	生物生産 フードマネジメント
	ツーリズムデザイン	3後	2	事業プランニング/地域創生 価値創造デザイン	食品の安全性管理	3後	2	生物生産 フードマネジメント
	計34科目							

2 一他学群・他学類履修、他大学等履修、入学前既修得単位の単位認定について（学則第37条、第38条、第40条）

(1) 他学群または他学類の履修について

他学群・他学類の授業科目の履修を希望する場合は、学長の承認を得て、60単位を超えない範囲で単位を修得することができます。他学群・他学類として学生が申請できる授業科目は下表のとおりです。

学群	他学群・他学類の学生が申請できる授業科目の範囲
看護学群	授業形態が「講義」区分の科目
事業構想学群	科目区分「卒業研究」を除く全ての科目
食産業学群	全ての科目（ただし、科目区分「卒業研究」については、食産業学群の学生が、所属していない他学類の科目を申請できる）

(2) 単位認定に係る申請について

他学群又は他学類の授業科目の履修、他の大学又は短期大学における授業科目の履修等、大学以外の教育施設における学修、入学前の既修得単位の認定に係る申請は下表のとおりです。これらの申請が必要な場合は、事務局窓口にて、あらかじめ相談してください。

	学群	要件	履修に係る申請	単位認定に係る申請	
①	本学の他学群・他学類の 授業科目を履修したいとき (他学群・他学類履修)	あらかじめ当該授業科目担 当教員の確認を得ること	前期又は後期の授業科目 履修登録期限前までに、 <u>承認申請</u> を行うこと	当該単位を修得した年の翌 年の前期授業科目の履修 登録期限日までに、 <u>在学 中修得単位の認定申請</u> を 行うこと ※1	あわせて 60単位 を超えな いもの
②	在学中に、他の大学又は 短期大学（外国の大学・ 短期大学を含む）、高等専 門学校の専攻科等におけ る授業科目を履修したいと き（他大学等履修）	他大学等との協議又は単 位互換協定等に基づくもの	事前申請を行うこと		
③	入学する前に、大学又は 短期大学において修得した 単位を認定したいとき (入学前既修得単位)				
※1 ②、③の認定申請は、所定の申請書に加えて、以下の書類を添える必要があります。 ・成績証明書（単位を修得した大学等の発行するもの） ・申請する授業科目について、単位を修得した大学等が作成した授業科目の内容、単位制度等、単位の換算認定に必要な資料					

※なお、学都仙台単位互換ネットワークに関する協定に基づく授業科目に関する履修については、P26に記載しています。

(3) 単位認定された授業科目の本学開講科目との振替について

②他大学等履修、③入学前既修得単位として単位認定された科目については、本学開講科目において単位を修得したものととして、申請・審査の上、振り替えることができます。

本学開講科目への振替の可否は、学群教授会において、所属学群及び学類開講科目と、単位認定された科目の授業内容等を相互に比較し、その類似性により決定します。

ただし、看護学群において振替により卒業要件単位に算入することのできる授業科目は基盤教育のみとし、その上限を8単位としています。

(4) 振替できない科目の卒業要件単位数への算入について

単位認定された科目のうち、振替できない科目の卒業要件単位数への算入は下表のとおりです。なお、これらの科目について、卒業要件単位算入の認定を希望する学生は、別途申請を行う必要がありますので、事務局窓口にて、あらかじめ相談してください。

		区分（略称）	看護学群	事業構想学群	食産業学群	
外国人留学生を除く学生	①	他学群・他学類履修	算入不可	基盤教育科目に区分し 3 単位まで算入可能	基盤教育科目に区分し 3 単位、他学類科目は専門関連科目に区分し 8 単位、総計 8 単位まで算入可能	総計 8 単位まで算入可能
	②	他大学等履修			基盤教育科目に区分し、3 単位まで算入可能	
	③	入学前既修得単位				
外国人留学生	①	他学群・他学類履修	算入不可	算入不可	他学類科目は専門関連科目に区分し、総計 8 単位まで算入可能	総計 8 単位まで算入可能
	②	他大学等履修			算入不可	
	③	入学前既修得単位				

(5) 単位認定を受けた授業科目の成績表記について

単位認定された科目について、成績表記は下表のとおりです。なお、①については、本学の開講科目のため、成績及び科目担当教員名が明記されますが、②③については、単位が認定されたことのみ記載されます。

	区分		科目分類	科目区分	科目名称	単位数	成績評価の表記	科目担当教員名
①	他学群・他学類履修		他学群・他学類	履修した科目の区分	履修した科目の名称	履修した科目の単位数	秀・優良・可	記載
② ③	他大学等履修・入学前既修得単位	うち振替可能授業科目	他大学等	振替した科目の区分	振替した科目の名称	振替した科目の単位数	認定	空欄
		うち振替できない授業科目		—	履修した他大学等の授業科目名称	原則として、履修した他大学等の配当単位数		

3 一学都仙台単位互換ネットワーク 単位互換制度

(1) 学都仙台単位互換ネットワーク 単位互換制度とは

学都仙台単位互換ネットワークは、この制度に参加する大学、短期大学、高等専門学校に在籍する学生が、他の参加校の授業科目を履修し、そこで取得した単位を在籍する大学等の単位として認定する制度です。この制度による授業科目の履修には、原則として、授業料はかかりません(放送大学の授業料を除く。実習費用等が別途かかる場合があります)。履修できる授業科目(シラバス)や受講者数、その他の条件等については、受入れ大学が決定し、募集要項に定めています。

提供される科目や出願期間は大学ごとに毎年変わりますので、詳細は、学都仙台コンソーシアム単位互換ネットワークのウェブサイトを確認してください。



〈学都仙台コンソーシアム〉

(2) 単位互換制度の申請方法

①受講手続きの流れ

	募集要項・出願期間の確認		履修申請(出願)		履修許可・受講開始		成績連絡		卒業要件単位参入
前期	前年度3月		3月～4月		4月		10月		翌年度4月
後期	前年度3月		8月(大学により4月)		10月		3月		翌年度4月
手続きの流れ	各大学から提供科目・募集要項提示 ウェブサイトにて公開開始	→	ウェブサイトに出願期間提示 各大学の出願期間の1週間前までに単位互換願書を宮城大学事務局あてに提出	→	宮城大学事務局から履修の案内を受け取りしだい、授業の受講開始	→	宮城大学事務局より成績連絡	→	既修得単位認定の申請を宮城大学事務局に提出

②出願資格

宮城大学に在籍する学生(大学院生、研究生、科目等履修生及び特別聴講生を除く。)で、申請し許可を受けた方が対象です。ただし、科目によっては、女子学生に限る場合や「○年次生以上」という受講の制限を設けている場合がありますので、科目の履修を希望する大学等の募集要項を確認してください。

なお、相手先の大学によっては、最初の受講前に事前連絡が必要になる場合がありますので、各受入れ大学のウェブサイト、募集要項で確認してください。

③出願期間

出願期間は、相手先の大学によって違います。希望する大学の出願締切の1週間前までに、宮城大学事務局へ④の願書を提出してください。なお、相手先の大学によっては、前期・後期科目ともに4月を出願期限としている場合があります。

④出願方法

履修を希望する場合は、「単位互換学生(特別聴講学生)願書」(共通様式または各校指定様式)に必要な事項を記入して、宮城大学事務局へ提出してください。その他必要書類があれば窓口でお知らせします。

⑤授業の履修

出願があってから、相手先の大学で審査が行われ、受講の可否が決定します。受入校からの「受入決定通知書」をもって履修決定となりますが、それ以前でも講義を聴講することは可能です。受講が決定したら宮城大学事務局よりお知らせします。

⑥成績連絡

履修した科目の成績は、宮城大学を通じてお知らせします。相手先大学から連絡があり次第、学内メール又は学務管理システムでお知らせしますので、宮城大学事務局窓口で受け取ってください。

⑦単位の認定及び卒業要件単位への参入

⑥で成績が通知された場合、既定の範囲内で単位の認定及び卒業要件単位に算入することができます。詳細は、「宮城大学他学群・他学類履修及び他大学等履修に関する実施要綱」に定めていますので、MYUpediaで確認してください。



〈MYUpedia〉

4 一学外研修・グローバルインターンシップ

(1) 学外研修・グローバルインターンシップとは

国内・海外を問わず学外における一定期間の計画的なプログラムに参加し、一定の成果を得られた場合、全学共通科目の「学外研修」の単位を修得することができます。また、主に海外における一定期間の研修を通して、グローバル人材として必要なスキル、社会に必要なコミュニケーション能力を身につけ、一定の成果を得られた場合、全学共通科目の「グローバルインターンシップ」の単位を修得することができます。

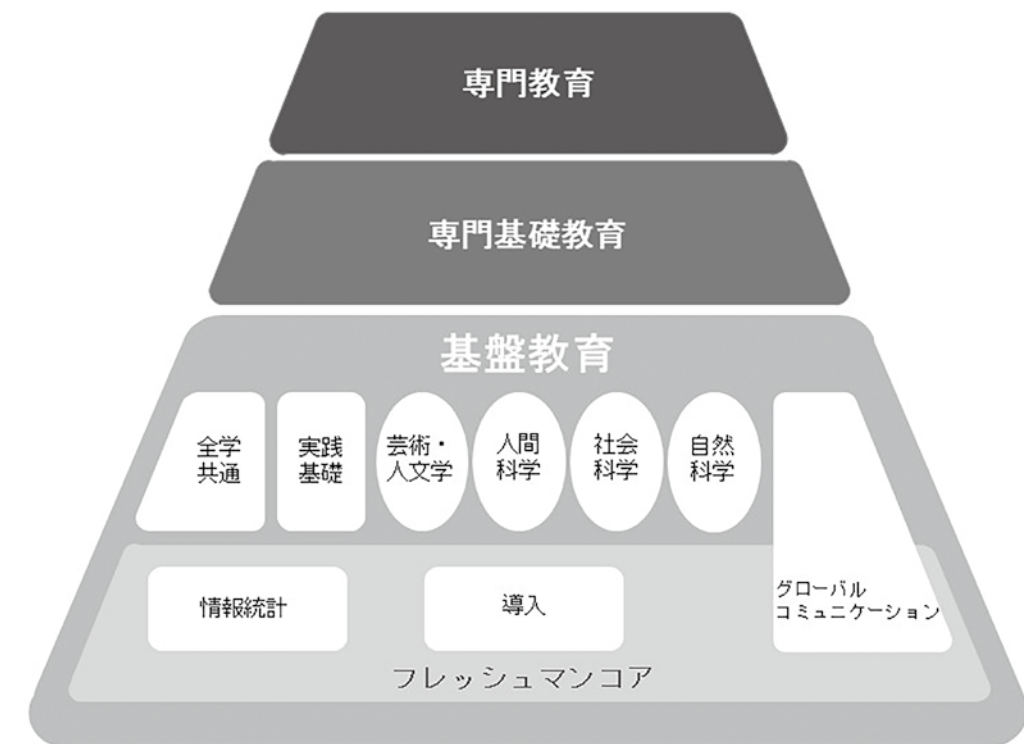
(2) 科目の履修方法

学外研修、グローバルインターンシップの2科目とも、学内選考のうえで参加が決定します。そのため、学務管理システムでの履修登録は行わず、国際交流・留学生センター、基盤教育群等から案内される募集手続きに従って応募・履修登録します。詳細は各担当部局で配布する募集要項等を確認してください。なお、看護学群は実習期間により参加できる日程が限られる場合がありますので、実習日程を確認の上で応募してください。

V. 基盤教育

皆さんは大学での学びをどのようにお考えでしょうか。これまでの皆さんの学びの方法は、文法であれ、法則であれ、情報活用のスキルであれ、あるいは歴史・文化・社会についての知識であれ、教えられたことを覚える、といったものではなかったでしょうか。しかし、大学での学びは、教えられたことを覚えるだけでは十分とはいえません。大学での学びの中心は、教えられたことを踏まえながらも、自ら考え、課題を見出し、その解決策を探究していくことにあります。そのためには、自ら調べ、考えを深めることのみならず、他者と意見を交わり、自らとは異なる見解や文化のなかに問題解決の可能性を探ることも必要となります。学問に触れ、地域とかかわり、他者と交わるなかで、身近な地域に、多様な社会に、そして広い世界のなかに自らを位置付けることによって、将来の展望を持つことができるようになる。宮城大学は、このような考えのもと、大学での学びが生涯の学びの糧となることを願っています。

その意味では、皆さんの大学での学びが充実したものとなるのが肝要です。そして、そのための最初の働きかけが宮城大学の基盤教育です。基盤教育では、3つの力(知)を養います。1つ目は、基礎的な言語・数量・情報を使いこなす力(技法知)。2つ目は、学知を理解し、検討し、新たな視点を見出す力(学問知)。そして3つ目は、自己と他者への理解を深め、他者と協働しながら目標を達成する力(実践知)。これら3つの力(知)の修得を通じて、人間力の向上、生涯にわたって学び続ける力の涵養、そして明日の姿を見通す力の育成を目指します。



上の図に示すように、基盤教育は「導入科目」「情報統計」「芸術・人文学」「人間科学」「社会科学」「グローバルコミュニケーション」「自然科学」「実践基礎」「全学共通科目」の9つの科目分野から構成されています。各分野の概容については、ページをあらためて、ご紹介します。

1ーフレッシュマンコアとは

基盤教育科目の中核として、将来の社会に求められる基礎力の養成と地域社会や情報技術の理解のための全学必修科目群をフレッシュマンコアと呼びます。

フレッシュマンコアは、技法知、学問知、実践知の修得に向けた基礎トレーニングの場です。ここではまず専門科目を主体的に学ぶための礎を築きます。また、少人数のグループで課題に取り組み、仲間とともに学びながら、多様な意見から集団で答えを導き出す能力を養っていきます。さらに、地域や社会の一員として自らの果たすべき役割についても考えを深めていきます。これら一連の営みを通じて、一人ひとりの生涯の学びの基盤を確かなものにしていきます。

〈フレッシュマンコア〉

「明日の姿を見通す力」を身につける宮城大学の基盤教育スタンダード



人間力＋学び続ける力



明日の姿を見通す力

フレッシュマンコアとして全学必修科目に指定されている科目は、以下の通りです。

①スタートアップセミナーⅠ …… ▶宮城大学での学びの基礎を確立するための科目です。前半は、大学での学びに必要な知見やスキルを講義形式で学びます。後半は、課題解決に向けた主体性・協働性の涵養にも配慮し、少人数でのグループワークが中心となります。

②スタートアップセミナーⅡ …… ▶前半は、在学中に必要とされるだけでなく、卒業後にも利用可能な、汎用性の高い知見・態度の涵養とスキルの修得を目指します。後半は、キャリア・デザインの授業を通じて、自分自身の現在・過去・未来を考えていきます。

③地域フィールドワーク …… ▶地域を歩き、自らのミッションを問う。地域に貢献できる人材の持つべき素養として、地域（東北、宮城等）の自然・歴史・文化等を学びながら、地域の多様な人々や地域が抱える課題に目を向け、自らの「果たすべき役割」を考えていきます。

④コンピューターリテラシー …… ▶リテラシーとは元々は読み書きの能力を指します。この科目では、コンピューターとネットワークをまさしく文房具として活用するための技法を習得します。道具を上手に使えることは生産性に直結します。

⑤情報化社会と技術 …… ▶学問としての計算機科学への導入科目です。すなわち、情報の理論、コンピューターの仕組み、プログラムと通信の原理を学びます。現代社会を支える情報システムの根幹を成す理論の枠組みを知ることは、それらをうまく利用するためにも極めて重要です。

⑥基礎統計学Ⅰ …… ▶AIやビッグデータ時代といわれる現代社会において、統計学に裏打ちされた数量科学的検証の重要性が高まっています。その応用は、あらゆる分野と幅広く、様々な性質のデータに対して統計解析を適切に実行し、妥当な解釈を得るには、正しい知識と解析技術が不可欠です。本講義では、グラフや表による標本データの整理・表現法を身につけ、記述統計を基礎とした理論や解析技術を学びます。

⑦必修英語科目（以下の6つの英語科目も全学必修です）
English GatewayⅠ、English Self-ExpressionⅠ
English GatewayⅡ、English Self-ExpressionⅡ
English for Academic Purposes、English Expedition
…… ▶世界中の社会や技術発展について書かれたテキストやオンライン教材を使用し、読解の能力を強化させる一方、スピーキングやライティングを通し、異なる表現方法を学びます。また、英語の教材を通して、様々な視点や異文化理解を身につけることを目指します。

2 基盤教育における9つの科目分野

基盤教育では、以下の9つの科目分野に、63科目を配しています。そのなかでも「＊」の付いている科目は全学必修科目となります。この他にも、学群ごとの必修科目が存在します。

(1) 導入科目：宮城大学の基盤教育を特徴づける科目分野

スタートアップセミナーⅠ＊	スタートアップセミナーⅡ＊	地域フィールドワーク＊
---------------	---------------	-------------

(2) 情報統計：AⅠ時代・情報化社会の基本スキルを修得するための科目分野

コンピューターリテラシー＊	情報化社会と技術＊	基礎統計学Ⅰ＊
基礎統計学Ⅱ ^(a)		

(a)「基礎統計学Ⅱ」は、事業構想学群および食産業学群の必修科目です。

(3) 芸術・人文学：豊かな精神性の涵養に資する科目分野

現代メディアカルチャー論	美術	音楽
美術演習	音楽演習	文学
世界の歴史と文化	日本の歴史と文化	東北の歴史と文化
人と宗教		

(4) 人間科学：心身の健康と健やかな生活環境の構築に資する科目分野

心理学	健康科学	スポーツ実技
体を動かす楽しみ	スポーツ科学	福祉入門
食と社会 ^(b)		

(b)「食と社会」は、食産業学群の必修科目です。

(5) 社会科学：社会の理解に資する科目分野

憲法	政治学概論	国際関係論
社会と経済	現代東北社会論	社会の諸相
社会と哲学	人口学概論	文化人類学概論

(6) グローバルコミュニケーション：国際感覚の育成に資する科目分野

English GatewayⅠ＊	English Self-ExpressionⅠ＊	English GatewayⅡ＊
English Self-ExpressionⅡ＊	English for Academic Purposes＊	English Expedition＊
University English	Academic Writing	Academic Reading
中国語Ⅰ	中国語Ⅱ	韓国語Ⅰ
韓国語Ⅱ	スペイン語Ⅰ／SpanishⅠ	スペイン語Ⅱ／SpanishⅡ
国際日本学／Japanology	グローバル・ビジネス／Global Business	

(7) 自然科学：自然の理解に資する科目分野

数学概論	数理科学	物理概論
化学概論 ^(c)	生物概論 ^(d)	生命科学
環境学概論	地球と宇宙	

(c)「化学概論」は、食産業学群の必修科目です。

(d)「生物概論」は、看護学群および食産業学群の必修科目です。

(8) 実践基礎：実践的な専門教育に向けての導きの糸となる科目分野

全学自由ゼミ ^(e)	コミュニティ・プランナー概論及び演習	アントレプレナー基礎
-----------------------	--------------------	------------

(e)「全学自由ゼミ」は、看護学群では開講しません。当該科目の履修を希望する看護学群の学生は、他学群・他学類履修制度により履修してください。

(9) 全学共通科目：国内外の大学や企業と連携した研修など、全学に共通する学びを提供する科目分野

学外研修	グローバルインターンシップ	
------	---------------	--

3 留学生対象科目

外国人留学生の皆さんは、下表の基盤教育科目が必修となります。
また、記載されている英語科目(*)の中から4年間で2単位(2科目)以上を履修し修得する必要があります。

科目	看護学群	事業構想学群	食産業学群
スタートアップセミナーⅠ	○	○	○
スタートアップセミナーⅡ	○	○	○
地域フィールドワーク	○	○	○
コンピューターリテラシー	○	○	○
情報化社会と技術	○	○	○
基礎統計学Ⅰ	○	○	○
基礎統計学Ⅱ	選択	○	○
* English GatewayⅠ	6科目から 2単位(2科目) 以上選択	6科目から 2単位(2科目) 以上選択	6科目から 2単位(2科目) 以上選択
* English Self-ExpressionⅠ			
* English GatewayⅡ			
* English Self-ExpressionⅡ			
* English for Academic Purposes			
* English Expedition			
化学概論	選択	選択	○
生物概論	○	選択	○
食と社会	選択	選択	○
日本語Ⅰ	○	○	○
日本語Ⅱ	○	○	○
日本語Ⅲ	○	○	○
日本事情Ⅰ	○	○	○
日本事情Ⅱ	○	○	○

4 教育課程の一覧

基盤教育を含む教育課程の一覧は、「Ⅵ学群」の章の科目配当表に記載しています。学群・学類毎に開講科目、必修・選択、分野毎の卒業要件単位が異なりますので、確認のうえ計画的に履修してください。

VI. 食産業学群

1 食産業学群について

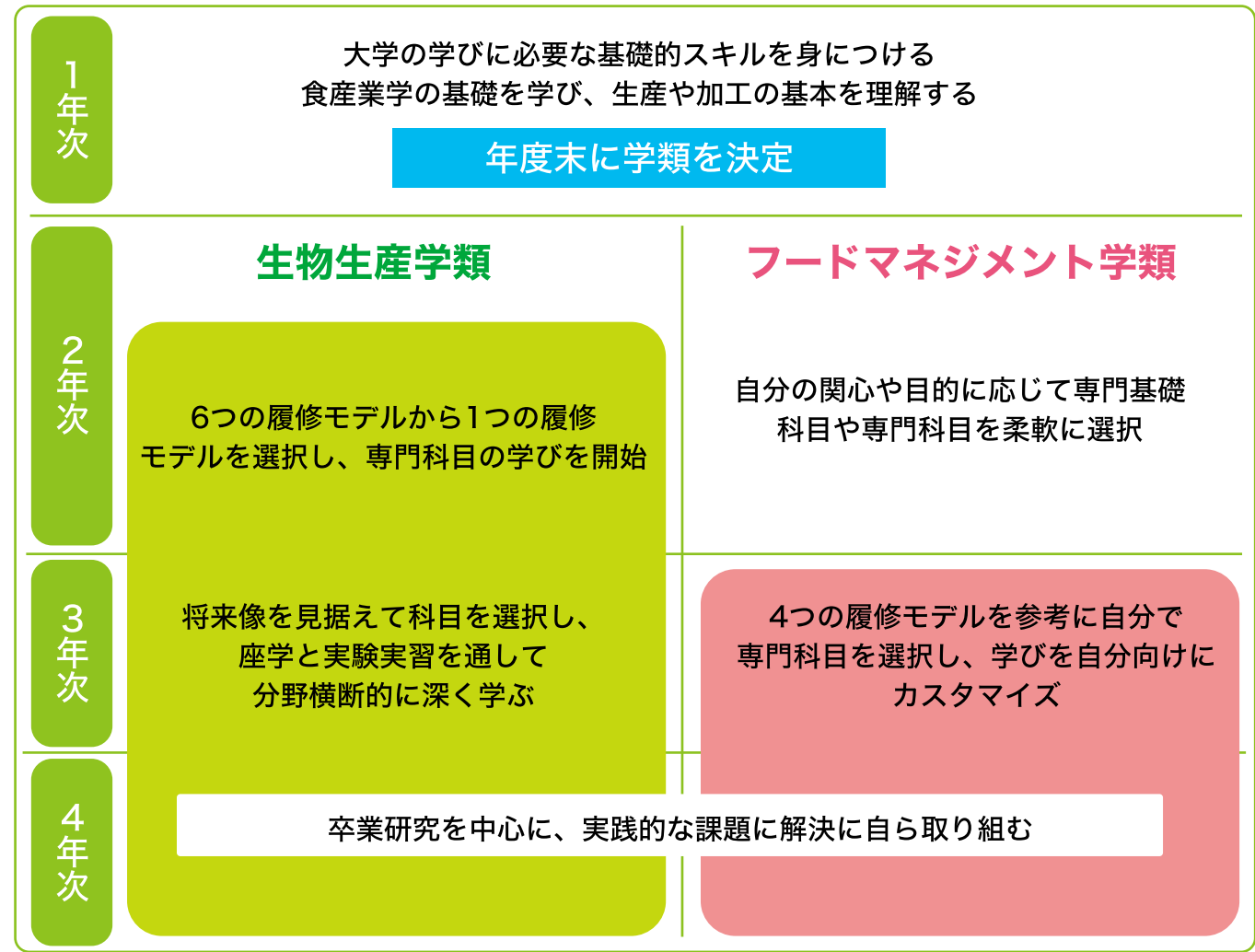
この章では、食産業学群における4年間の学びの流れや、それぞれの学類のカリキュラムの特徴、教育目標及び必要単位数について記載しています。これらの内容の詳細は、履修規程、宮城大学学位規程に記載されています。

とくに、各学類の「科目配当表」は、年次に合わせて修得の必要な単位数や、専門科目の修得の仕方について記載していますので、学びの計画を立てる際や、履修登録を行う際に役立ててください。

(1) カリキュラムの特徴

食産業学群では、食材原料の生産から加工、流通、消費およびそれらを取り巻く環境にわたる食産業について、基礎から専門まで学びます。食材の生産、食品の加工を中心とした生物学や化学などの自然科学あるいは工学的な側面と、経済学、経営学などの社会科学的な側面について、理論と実際を組み合わせた実践的な知識や技術を学びます。

(2) 食産業学群での学び



(3) 食産業学群、生物生産学類・フードマネジメント学類の教育目標

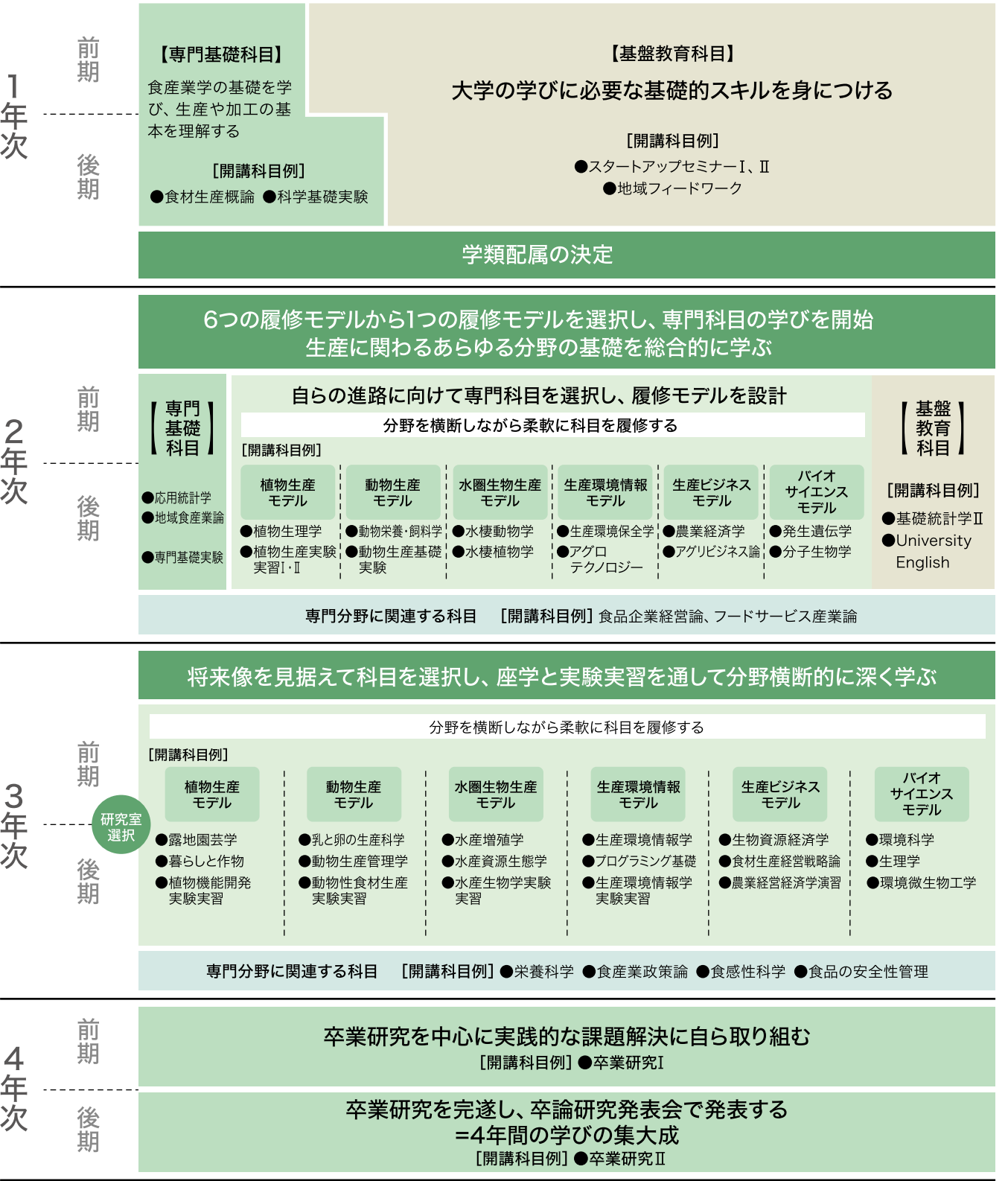
	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
学群共通	食産業学群では、以下の要件を満たした学生に学士（食産業学）の学位を授与する。	食産業の課題について自ら進んで取り組み、地域資源を活用しつつ、科学的知見と国際的視点から解決し、未来を開拓できる能力を養う体系的カリキュラムを設ける。 担当教員とコミュニケーションを取りつつ、これまで学修した知識や技術、表現力を駆使し、思考力・判断力を用いて主体的に取り組む卒業研究を置く。 地域の生物資源の高付加価値化や生産方法に関する知識・技術を修得するため、「生物生産学類」を設置する。 適切なフードシステムの構築に必要なサイエンスとビジネスの両面の知識・技術を修得するため、「フードマネジメント学類」を設置する。
知識・技術	食産業に関する専門分野の知識・技術を持ち、その分野を体系的に理解し、分野特有の知識と技術を活用できる。	基盤教育の知識や技術をベースに、食産業に関する多様な分野における実践的な知識と技術の修得ができるよう、自然科学分野および社会科学分野の両面について、基礎から応用に至る体系的な教育を行う。また、自然科学分野と社会科学分野の双方を並行して学ぶことが望ましいことから、いずれの分野についても学修することとし、カリキュラム上もその機会を設ける。 生物生産学類では、陸圏および水圏の生物生産とその供給、生産環境技術、経済・経営等の食産業に関わる幅広い視点から、生物学の基礎的知識、食料生産の技術と経営の基礎的理論を学修する講義、これらの理論を実践できる実験・実習・演習を専門基礎科目として置く。さらに専門科目では、動・植物や微生物の資源開発や付加価値生産、また持続的な生産と供給に寄与する制御技術や生産環境、経営に活用できる先端的知識を学修する講義、これらの知識を実践できる実験・実習・演習を置く。 フードマネジメント学類では、経済、経営、マーケティング、食産業関連政策等、フードビジネスの各分野を学修する講義、食品科学の基礎を学修する講義、これらの実践的な学修機会としての実験・実習・演習を専門基礎科目として配置する。専門科目では、フードシステムの一体性の観点をふまえ、戦略的な経営を実践するための知識、食の歴史や文化、食を扱う企業の行動倫理、多様なニーズに対応する新規食品の開発技術、食品の衛生・管理技術を学修する講義、これらの知識を実践できる実験・実習・演習を置く。
判断思考力	食産業に関わる問題を論理的な分析に基づいて検討・考察することができる。	生物生産やフードシステムの各分野に必要な統計的な解析法やエビデンスベースの分析理論等を学修できる専門基礎科目を置く。 専門科目では、専門基礎科目で学修した分析手法を実際に活用し、食産業における課題の設定、解決法の立案、結果の考察、次の課題の抽出、といった一連のスキームを取り入れた実験・実習・演習を実施する。
表現	食産業に関わる事実とそれに対する思考・考察と判断の過程を的確に表現できる。	生物生産やフードシステムの各分野に関する論理的分析や考察について、文章や口頭での確に表現する機会を積極的に取り入れた専門基礎科目を置く。 専門科目では、食産業の現状を正確に説明し、持続的発展に寄与できる分析や考察を提示する能力を養うために、ディスカッションやプレゼンテーション、論文作成等を取り入れた成果発表型のプログラムを実施する。
主体性	社会の持続的発展と福祉の増進のため、食産業に関わる課題を自ら設定し、その課題解決に主体的に取り組むことができる。	食産業の幅広い視野を持てるよう多様な科目を配置するとともに、学生の自発的な学修を実践するため、自らの将来目標に従って履修科目を選択できるようにする。 実験・実習・演習の専門科目では、自らの知識と取組により課題発見と課題解決ができるよう探求的プログラムを実施する。 キャリア教育では、食産業の現場において、自分の将来像をデザインできるようにするためのプログラムを取り入れる。
協働性	課題発見や課題解決に向けて、他者の意見を求め、他者と協働しながら行動できる。	互いにコミュニケーションをとり、話し合い、協力する能力を養うため、グループで取り組む活動を実験・実習・演習等の専門基礎科目や専門科目に置く。また講義科目でも協働性を培える機会には、こうした教育的実践を行う。

2 生物生産学類について

(1) 生物生産学類のカリキュラムの特徴

生物生産学類では、1年次に基盤教育科目と専門基礎科目を学びます。1年次修了時に自分の進む学類が決まります。2年次からは6つの履修モデルから1つの履修モデルを選択し、専門科目を通して生産分野の基礎を学びます。3年次には、より専門性の高い科目を実験、実習を通じて分野横断的に学びます。4年次には、卒業研究で実践的な課題解決に取り組み、優位性のある新たな食材や生産法を提案・実践できるようになります。

生物生産学類での4年間の学び



(2) 生物生産学類の卒業認定基準表

区分		配当 単位数	必修 単位数	選択必修	必要単位数	
導入科目		5	5	0	5	39単位以上
実践基礎		5	0	0	0	
情報統計		8	8	0	8	
グローバルコミュニケーション		19	6*1	2以上	8以上	
社会科学		17	0	2以上	2以上	
自然科学		16	4	0	4以上	
芸術・人文学		18	0	2以上	2以上	
人間科学		9	1	2以上	3以上	
留学生対象*2		8	7	0	7以上	
全学共通		4	0	0		
専門基礎		32	24	0	30単位以上	
		2	0	0	(卒業要件外)	
専門 科目	共通科目	5	5	0	5	41単位以上
	植物生産科目	21	0	4以上	4以上	
	動物生産科目	16	0	4以上	4以上	
	水圏生物生産科目	9	0	2以上	2以上	
	生産環境情報科目	9	0	2以上	2以上	
	生産ビジネス科目	13	0	4以上	4以上	
	基礎科学科目	12	0	2以上	2以上	
	専門関連科目	32	0	0		
		2	0	0	(卒業要件外)	
卒業研究		8	8	0	8単位	
合計		270	卒業要件単位数			132単位以上

*1 留学生は2単位以上選択必修
*2 留学生のみ履修可能

43

(6) 生物生産学類の履修モデル

①生物生産学類の履修モデルの概要

生物生産学類では、自らの興味関心、進路、資格取得に応じた科目選択を行い、将来設計を踏まえた体系的学修ができるように、複数の履修モデルを作成しています。各自の意欲や将来設計に合わせて、様々な科目を組み合わせた学修に努めてください。

履修モデル区分	主な内容
植物生産モデル	生産物供給に関する経済・経営の基礎を身につけた上で、植物の生理生態とともに、穀類や園芸作物の生産システムや栽培施設管理の知識・技術などを学修します。農産食材の付加価値生産を生産現場で展開できる人材を目指します。
動物生産モデル	生産物供給に関する経済・経営の基礎を身につけた上で、畜産物の生産科学や動物福祉、生産環境等の知識・技術などを学修します。畜産食材の付加価値生産を生産現場で展開できる人材を目指します。
水圏生物生産モデル	生産物供給に関する経済・経営の基礎を身につけた上で、水圏生物の生理生態、水産資源の生産加工技術、水圏環境の知識や技術を学修します。生産・加工技術を駆使して地域の水産業を発展させることができる人材を目指します。
生産環境情報モデル	生産物供給に関する経済・経営の基礎を身につけた上で、情報技術を駆使しながら、生産環境測定・制御、食資源リサイクル等を通じた資源循環システムの知識や技術を学修します。地域の食産業分野の生産環境を評価できる人材を目指します。
生産ビジネスモデル	食をとりまく生物生産の基礎知識・技術を身につけ、生物生産の経済、経営、マーケティング等の専門知識や技法を学修します。農畜水産業の現場で農業法人の経営や生産物の流通分野で活躍できる人材を目指します。
バイオサイエンスモデル	食材生産の原理や技術とともに、動植物や微生物の遺伝や生理の基礎科学、遺伝子やタンパク質の解析技術、有用物質の分析技術等を学修します。これら食材生産の研究開発やバイオテクノロジー等の分野から食材の付加価値生産を基礎技術で支えることができる人材を目指します。

②生物生産学類の履修モデル

凡例：●・・・必修 ○・・・推奨

科目区分	授業科目	配当 年次	単 位 数	授 業 形 態	植物 生産 モデル	動物 生産 モデル	水圏 生物 生産 モデル	生産 環境 情報 モデル	生産 ビジネス モデル	バイオ サイエンス モデル	卒業要件		
											区分ごとの要件1	区分ごとの要件2	備考
導入科目	スタートアップセミナーⅠ	1前	2	講義	●	●	●	●	●	●	13単位必修		
	スタートアップセミナーⅡ	1後	2	講義	●	●	●	●	●	●			
	地域フィールドワーク	1前	1	講義	●	●	●	●	●	●			
	全学自由ゼミ	集中	1	演習									
実践基礎	コミュニティ・プランナー概論及び演習	2前	2	講義									
	アントレプレナー基礎	集中	2	講義									
	コンピューターリテラシー	1前	2	講義	●	●	●	●	●	●			
情報統計	情報化社会と技術	1後	2	講義	●	●	●	●	●	●			
	基礎統計学Ⅰ	1後	2	講義	●	●	●	●	●	●			
	基礎統計学Ⅱ	2前	2	講義	●	●	●	●	●	●			
グローバルコミュニケーション	English GatewayⅠ	1前	1	演習	●	●	●	●	●	●			留学生は2単位以上選択必修
	English Self-ExpressionⅠ	1前	1	演習	●	●	●	●	●	●			
	English GatewayⅡ	1後	1	演習	●	●	●	●	●	●			
	English Self-ExpressionⅡ	1後	1	演習	●	●	●	●	●	●			
	English for Academic Purposes	2前	1	演習	●	●	●	●	●	●			
	English Expedition	2前	1	演習	●	●	●	●	●	●			
	University English	2後	1	演習	○	○	○	○	○	○			
	Academic Writing	2後	1	演習	○	○	○	○	○	○			
	Academic Reading	2後	1	演習	○	○	○	○	○	○			
	中国語Ⅰ	1・2前	1	演習	○	○	○	○	○	○			
	中国語Ⅱ	1・2後	1	演習	○	○	○	○	○	○			
	韓国語Ⅰ	1・2前	1	演習									
	韓国語Ⅱ	1・2後	1	演習									
	スペイン語Ⅰ/SpanishⅠ	1・2前	1	演習									
	スペイン語Ⅱ/SpanishⅡ	1・2後	1	演習									
	国際日本学/Japanology	1・2後	2	講義									
	グローバル・ビジネス/GlobalBusiness	1・2後	2	講義									
	憲法	1・2前	2	講義									
	政治学概論	1・2前	2	講義									
社会科学	国際関係論	1・2後	2	講義	○	○	○	○	○	○	必修科目を含めて39単位以上修得	2単位以上修得	
	社会と経済	1・2前	2	講義	○	○	○	○	○	○			
	現代東北社会論	1・2後	2	講義									
	社会の諸相	1・2後	2	講義									
	社会と哲学	1・2前	2	講義									
	人口学概論	1・2前	1	講義									
	文化人類学概論	1・2前	2	講義									
	数理科学	1・2後	2	講義									
	生命科学	1・2後	2	講義						○			
	環境学概論	1・2前	2	講義				○					
自然科学	地球と宇宙	1・2前	2	講義							必修科目を含めて4単位以上修得		* *
	数学概論	1・2後	2	講義	○	○	○	○	○				
	物理概論	1・2後	2	講義				○		○			
	化学概論	1・2前	2	講義	●	●	●	●	●	●			
	生物概論	1・2前	2	講義	●	●	●	●	●	●			
	現代メディアカルチャー論	1・2前	2	講義									
芸術人文学	美術	1・2後	2	講義							2単位以上修得		
	音楽	1・2後	2	講義									
	美術演習	1・2後	1	演習									
	音楽演習	1・2前	1	演習									
	文学	1・2後	2	講義									
	世界の歴史と文化	1・2前	2	講義									
	日本の歴史と文化	1・2後	2	講義									
	東北の歴史と文化	1・2前	2	講義	○	○	○	○	○	○			
	人と宗教	1・2前	2	講義									
	心理学	1・2後	2	講義									
人間科学	健康科学	1・2後	2	講義	○	○	○	○	○	○	必修科目を含めて3単位以上修得		*
	スポーツ実技	1・2後	1	実験・実習									
	体を動かす楽しみ	1・2前	1	実験・実習									
	スポーツ科学	1・2後	1	講義									
	福祉入門	1・2前	1	講義									
	食と社会	1・2前	1	講義	●	●	●	●	●	●			
留学生対象	日本語Ⅰ	1前	1	演習							留学生のみ履修可能		留学生は必修 留学生は必修 留学生は必修
	日本語Ⅱ	1後	1	演習									
	日本語Ⅲ	2前	1	演習									
	日本語Ⅳ	2後	1	演習									
	日本事情Ⅰ	1前	2	講義									
	日本事情Ⅱ	1後	2	講義									
全学共通科目	グローバルインターンシップ	1・2集中	2	演習									
	学外研修	1・2集中	2	演習									

備考欄に「*」の付いている科目は、2年次までに修得しない場合に、進級要件における「未修得の必修単位」に該当する。

凡例：●・・・必修 ○・・・推奨

科目 区分	授業科目	配当 年次	単 位 数	授 業 形 態	植物 生産 モデル	動物 生産 モデル	水 圏 生物 生産 モデル	生産 環境 情報 モデル	生産 ビジネス モデル	バイオ サイエンス モデル	卒業要件			
											区分ごとの要件1	区分ごとの要件2	備考	
専門基礎科目	食産業学概論	1前	1	講義	●	●	●	●	●	●	必修科目を含めて 30単位以上修得			
	食材生産・加工実習Ⅰ	1前	1	実験・実習	●	●	●	●	●	●				
	経済経営学基礎	1後	2	講義	●	●	●	●	●	●				
	食材生産概論	1後	2	講義	●	●	●	●	●	●				
	フードマネジメント概論	1後	2	講義	●	●	●	●	●	●				
	科学基礎実験	1後	1	実験・実習	●	●	●	●	●	●				
	食材生産・加工実習Ⅱ	1後	1	実験・実習	●	●	●	●	●	●				
	財務・会計論	2前	2	講義	○	○	○	○	○	○				
	インターンシップ	2前	2	講義	●	●	●	●	●	●				
	専門基礎実験	2前	1	実験・実習	●	●	●	●	●	●				
	食産業学基礎演習	2前	1	演習	●	●	●	●	●	●				
	食品マーケティング基礎	2後	2	講義	●	●	●	●	●	●				
	応用統計学	2後	2	講義					○					
	地域食産業論	2後	2	講義	○	○	○	○	○	○				
	経済数学	2後	2	講義	○	○	○	○	○	○				
	コミュニティ・プランナー実践論	2後	2	講義								卒業要件単位に含まない		
	キャリア開発	2後	2	講義	●	●	●	●	●	●				
	食料・農業・農村政策	3前	2	講義	●	●	●	●	●	●				
	キャリアインターンシップ	3前	2	講義	●	●	●	●	●	●				
専門科目	実践キャリア開発	3後	2	講義	●	●	●	●	●	●	必修科目を含めて 41単位以上修得	5単位必修		
	食農素材化学	2前	2	講義	●	●	●	●	●	●				
	付加価値食材生産法	3後	2	講義	●	●	●	●	●	●				
	食産業学専門ゼミ	3後	1	演習	●	●	●	●	●	●				
	植物生産科目	植物生理学	2前	2	講義	○						○		4単位以上修得
		土壌肥料学	2前	2	講義	○								
		食用作物学	2前	2	講義	○	○	○	○	○				
		植物生産実験実習Ⅰ	2前	2	実験・実習	○								
		植物保護学	2後	2	講義	○								
		施設園芸学	2後	2	講義	○		○						
		植物生産実験実習Ⅱ	2後	2	実験・実習	○								
		植物遺伝育種学	3前	2	講義	○				○				
		露地園芸学	3前	2	講義	○								
	動物生産科目	植物機能開発実験実習	3前	1	実験・実習	○						○		
		暮らしと作物	3後	2	講義	○	○	○	○	○		○		
		動物栄養・飼料学	2前	2	講義	○	○		○					
		肉の生産科学	2後	2	講義		○	○	○	○				
		動物生殖学	2後	2	講義		○					○		
		動物生産基礎実験	2後	2	実験・実習		○					○		
動物遺伝育種学		3前	2	講義		○				○				
乳と卵の生産科学		3前	2	講義		○	○	○	○					
動物性食材生産実験実習		3前	2	実験・実習		○								
水圏生物 生産科目	動物生産管理学	3後	2	講義	○	○		○	○	○				
	水棲動物学	2後	2	講義			○			○				
	水棲植物学	2後	2	講義	○		○			○				
	水産増殖学	3前	2	講義	○	○	○	○	○	○				
	水産資源生態学	3前	2	講義		○	○	○						
生産環境 情報科目	水産生物学実験実習	3後	1	実験・実習			○			○				
	生産環境保全学	2前	2	講義		○	○	○	○					
	アグロテクノロジー	2後	2	講義	○	○	○	○	○	○				
	生産環境情報学	3前	2	講義	○			○		○				
	プログラミング基礎	3前	2	講義				○	○					
生産ビジネス 科目	生産環境情報学実験実習	3後	1	実験・実習				○	○					
	農業経済学	2前	2	講義	○	○	○	○	○	○				
	アグリビジネス論	2後	2	講義	○	○	○	○	○	○				
	食材生産経営学	2後	2	講義	○	○	○	○	○					
	生物資源経済学	3前	2	講義	○	○	○	○	○	○				
	食材生産経営戦略論	3前	2	講義	○	○	○	○	○					
	現代食農ビジネス論	3後	2	講義	○	○	○	○	○					
基礎科学 科目	農業経営経済学演習	3後	1	演習					○					
	発生遺伝学	2前	2	講義	○		○			○				
	生物有機化学	2前	2	講義			○	○		○				
	分子生物学	2後	2	講義			○		○	○				
	環境科学	3前	2	講義	○		○	○	○	○				
	生理学	3前	2	講義		○				○				
環境微生物工学	3後	2	講義			○	○		○					

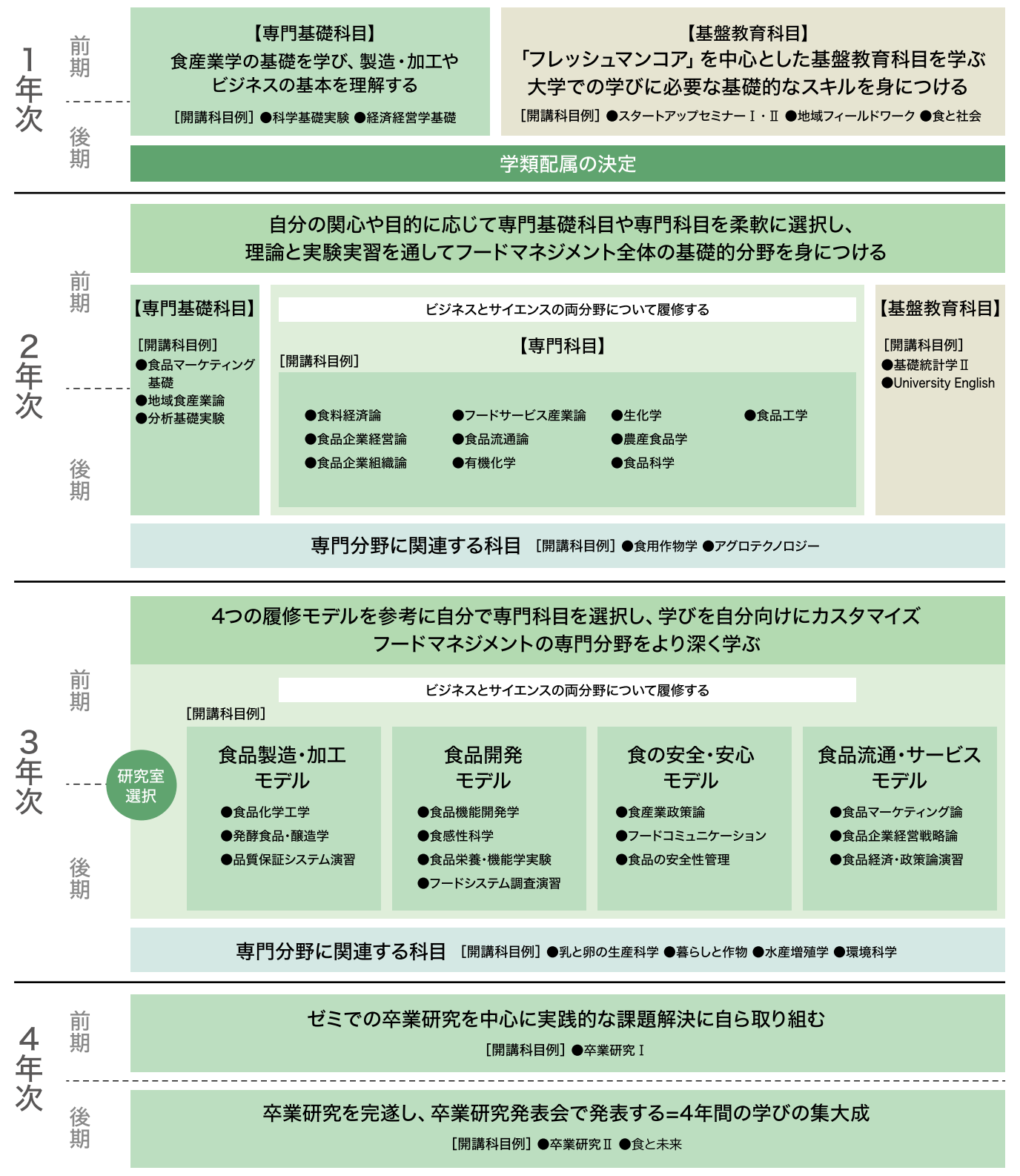
凡例：●・・・必修 ○・・・推奨

科目 区分		授業科目	配当 年次	単 位 数	授 業 形 態	植物 生産 モデル	動物 生産 モデル	水圏 生物 生産 モデル	生産 環境 情報 モデル	生産 ビジネス モデル	バイオサイエンス モデル	卒業要件		
												区分ごとの要件1	区分ごとの要件2	備考
専門 関連科目		食品企業経営論	2後	2	講義					○				
		フードサービス産業論	2後	2	講義					○				
		栄養科学	3前	2	講義	○	○	○			○			
		微生物学	3前	2	講義			○	○		○			
		食品機能開発学	3前	2	講義		○							
		発酵食品・醸造学	3後	2	講義		○				○			
		食品マーケティング論	3前	2	講義					○				
		食産業政策論	3前	2	講義				○	○				
		食品流通論	3後	2	講義				○	○				
		食品衛生学	3前	2	講義		○	○			○			
		コミュニティプランナー・フィールドワーク演習Ⅰ	3前	1	演習									
		食感性科学	3後	2	講義				○					
		フードコミュニケーション	3後	2	講義					○				
		水産食品学	3後	2	講義			○						
		食品の安全性管理	3後	2	講義					○				
		食品衛生学実験	3後	1	実験・実習						○			
		品質保証システム演習	3集中	1	演習						○			
		企業倫理	4前	2	講義						○			
		コミュニティプランナー・フィールドワーク演習Ⅱ	3後	1	演習									
卒業研究		卒業研究サーベイ	3後	2	演習	●	●	●	●	●	●	8単位必修		
		卒業研究Ⅰ	4前	3	演習	●	●	●	●	●	●			
		卒業研究Ⅱ	4後	3	演習	●	●	●	●	●	●			
基盤教育科目、全学共通科目、専門基礎科目、専門科目、卒業研究の合計						133	132	133	139	137	135	卒業要件単位数132単位以上修得		

3ーフードマネジメント学類について

(1) フードマネジメント学類のカリキュラムの特徴

フードマネジメント学類では、1年次では共通の基盤教育科目と専門基礎科目を学び、1年次の修了時に自分の進む学類が決まります。2年次では専門基礎科目とより専門性の高い専門科目を学びます。4つの履修モデルを参考に、自分の進路や目的に合わせて科目を選択します。3年次では、より実践的な専門性の高い学びとなります。4年次の卒業研究では、研究室の指導教員の指導の下、具体的・実践的な課題に取り組みその解決について研究します。これまで学んできたものをフル活用し、フードマネジメント学類の学びとしての集大成を行います。



(2) フードマネジメント学類の卒業認定基準表

区分		配当 単位数	必修 単位数	選択必修	必要単位数		
導入科目		5	5	0	13以上	39単位以上	
実践基礎		5	0	0			
情報統計		8	8	0			
グローバルコミュニケーション		19	6* ¹	0	8以上		
社会科学		17	0	0	2以上		
自然科学		16	4	0	4以上		
芸術・人文学		18	0	0	2以上		
人間科学		9	1	0	3以上		
留学生対象* ²		8	7	0	7以上		
全学共通		4	0	0			
専門基礎		32	23	0	30単位以上		
		2	0	0	(卒業要件単位外)		
専門 科目	共通科目	2	2	0	2	55単位以上	
	フードシステム・経営科目	37	4	0	8以上		
	食品製造・管理科目	43	5	0	8以上		
	専門関連科目	22	0	0			
		2	0	0		(卒業要件単位外)	
卒業研究		8	8	0		8単位	
合計		257	卒業認定単位数 132単位以上				

*1 留学生は2単位以上選択必修
*2 留学生のみ履修可能

(5) フードマネジメント学類の科目配当表

		● 必修		▲ 卒業要件単位外														区分要件1	区分要件2	備考	132単位以上修得 /257単位
		1年前期		1年後期		2年前期		2年後期		3年前期		3年後期		4年前期		4年後期					
基礎教育科目	導入科目	● スタートアップセミナーⅠ ● 地域フィールドワーク	2 1	● スタートアップセミナーⅡ	2													39単位以上修得	13単位必修	留学生は2単位以上 選択必修	
	実践基礎	全学自由ゼミ(集中講義) アントレプレナー基礎(集中講義)	1 2			コミュニティ・プランナー概論および演習	2										必修科目を含めて 8単位以上修得				
	情報統計	● コンピューターリテラシー	2	● 情報化社会と技術 ● 基礎統計学Ⅰ	2 2	● 基礎統計学Ⅱ	2												必修科目を含めて 3単位以上修得		
	GC	● English GatewayⅠ ● English Self-ExpressionⅠ	1 1	● English GatewayⅡ ● English Self-ExpressionⅡ	1 1	● English for Academic Purposes ● English Expedition	1 1										留学生のみ履修 可能				
		中国語Ⅰ スペイン語Ⅰ/SpanishⅠ 韓国語Ⅰ	1 1 1	中国語Ⅱ スペイン語Ⅱ/SpanishⅡ 韓国語Ⅱ 国際日本学 グローバルビジネス	1 1 1 2 2	University English Academic Writing Academic Reading	1 1 1														
		社会科学	憲法 政治学概論 社会と経済 社会と哲学 人口学概論 文化人類学概論	2 2 2 2 1 2	国際関係論 現代東北社会論 社会の諸相	2 2 2														2単位以上修得	
	自然科学	● 環境学概論 ● 地球と宇宙 ● 化学概論 ● 生物概論	2 2 2 2	数理科学 生命科学 数学概論 物理概論	2 2 2 2													必修科目を含めて 4単位以上修得			
		芸術・人文学	現代メディアカルチャー論 音楽演習 世界の歴史と文化 東北の歴史と文化 人と宗教	2 1 2 2 2	美術 音楽 美術演習 文学 日本の歴史と文化	2 2 1 2 2													2単位以上修得		
	人間科学		● 体を動かす楽しみ 福祉入門 食と社会	1 1 1	心理学 健康科学 スポーツ実技 スポーツ科学	2 2 1 1													必修科目を含めて 3単位以上修得		
	留学	日本語Ⅰ 日本事情Ⅰ	1 2	日本語Ⅱ 日本事情Ⅱ	1 2	日本語Ⅲ	1	日本語Ⅳ	1										留学生のみ履修 可能		
グローバルインターンシップ 学外研修		2 2																			
		1年前期		1年後期		2年前期		2年後期		3年前期		3年後期		4年前期		4年後期		区分要件1	区分要件2	備考	
専門基礎科目	● 食産業学概論	1	● 食材生産概論 ● フードマネジメント概論 ● 経済経営学基礎 ● 食材生産・加工実習Ⅱ ● 科学基礎実験	2 2 2 1 1	● 食産業学基礎演習 財務・会計論 分析基礎実験 ● インターンシップ	1 2 1 2	● 食品マーケティング基礎 応用統計学 地域食産業論 経済数学 ● キャリア開発 ▲ コミュニティ・プランナー実践論	2 2 2 2 2 2	● 食料・農業・農村政策 ● キャリアインターンシップ	2 2	● 実践キャリア開発	2					30単位以上修得	30単位以上修得			
	専門科目				食品化学 農産食品学 食品衛生学 ● 有機化学 生化学 微生物学	2 2 2 2 2 2	食品工学 水産食品学 畜産食品学 調理科学 ● 食品衛生学実験 食品貯蔵・流通技術論	2 2 2 2 1 2	微生物学実験 食品化学工学 官能評価学 食品機能開発学 ● 栄養科学 品質保証システム演習(集中講義)	1 2 2 2 2 1	食品の安全性管理 食感性科学 食品化学実験 食品栄養・機能学実験 発酵食品・醸造学	2 2 1 1 2	ライフステージ栄養学	2	● 食と未来	2	8単位以上 修得				
				● 食料経済論 食品企業組織論	2 2	● 食品企業経営論 フードサービス産業論 食品流通論	2 2 2	食品企業経営戦略論 フードシステム調査演習 フードサービス事業運営論 食品マーケティング論 ローカルフードシステム論 食産業政策論	2 1 2 2 2 2	食品マーケティング演習 食品企業経営戦略演習 食品経済・政策論演習 フードコミュニケーション フードサービス産業論演習 グローバルフードシステム論 食品情報科学論	1 1 1 2 1 2	食文化論 食産業・政策史 企業倫理	2 2 2		55単位以上 修得	8単位以上 修得					
専門関連科目					食用作物学	2	肉の生産科学 分子生物学 アグロテクノロジー	2 2 2	生理学 環境科学 乳と卵の生産科学 プログラミング基礎 水産増殖学 ▲ コミュニティプランナー・ フィールドワーク演習Ⅰ	2 2 2 2 1	暮らしと作物 現代食農ビジネス論 ▲ コミュニティプランナー・ フィールドワーク演習Ⅱ	2 2 1									
	卒業研究										● 専門科目(卒業研究) 卒業研究サーベイ	2	● 卒業研究Ⅰ	3	● 卒業研究Ⅱ	3	8単位				

(6) フードマネジメント学類の履修モデル

①フードマネジメント学類の履修モデルの概要

フードマネジメント学類のカリキュラムは、意欲を持って学修できるよう、自らの興味や関心、進路や資格取得などの目的に応じた科目選択ができます。ただし、まったく自由に科目を選択しては、大学4年間という短い期間で必ずしも効率的な学修に至らないこともあります。そこで、将来設計を踏まえた体系的学習の典型的なモデルケースとして、「食品製造・加工モデル」「食品開発モデル」「食の安全・安心モデル」「食品流通モデル」の4つのモデルを示しています。

必修科目は、この4モデル共通の科目で、それ以外は選択科目になりますが、選択科目の中でも推奨科目が示されており、モデルによって異なっています。推奨科目は、モデルのような目的で学修をしたいという学生には、是非とも履修することを「推奨」するものです。その分野で卒業研究などを行う場合には、それを踏まえて取り組んだ方が効率的に行えることがあるような科目です。また、そのほかの選択科目も、推奨ほどではないが、フードマネジメントの分野の体系では学ぶ価値のあるものとして配置されています。

このようにモデルを軸として総合的に学修することで、フードマネジメントの知識や技術を総合的に学修することが可能となります。なお、モデルごとに推奨科目を定めていますが、全ての推奨科目をとらなければならないものではありません。

各自の意欲や将来設計に合わせて様々な科目を組み合わせた学修に努めてください。

なお、科目グループ毎に卒業要件として取得すべき単位数がありますので、ご注意ください。

履修モデル区分	主な内容	育成される人材像
食品製造・加工モデル	食品製造・加工技術	食品に関する基本的な知識に加え、食品製造・加工の技術、食品の流通上の衛生管理や技術、健康や栄養等の技術に関する専門的知識を持ち、食品製造業、食品流通業およびフードサービス産業で技術・製造開発や安全性管理等において活躍できる技術者
食品開発モデル	食品の企画・開発	食品に関する基本的な知識に加え、製造・加工過程における食の安全性や衛生に関すること、また食品の栄養や機能性に関すること、食品企業の経営や食品についてのマーケティングのスキル等を身につけ、食品製造業や外食産業などにおいて新商品の企画や開発を行うことのできる技術者・プランナー
食の安全・安心モデル	食品の安全・衛生 食の消費に関わる諸課題	食品に関する基本的な知識に加え、製造・加工過程における食の安全性や衛生に関すること、また食品の栄養や健康・食育に関すること、食品リサイクル、食品ロス、フードデザートやSDGsなどについて消費者の立場から取り組む法人やビジネスリーダー
食品流通・サービスモデル	食品企業の経営管理 食品企業のマーケティングなどの事業運営	食品に関する基本的な知識に加え、食品企業の経営や食品についてのマーケティングのスキルを身につけ、また、食品産業やその構造に関する専門的知識を活用して、食品製造業、食品流通業およびフードサービスの分野で活躍できるビジネスリーダー

②フードマネジメント学類の履修モデル

凡例：●…必修 ○…推奨

科目区分	授業科目	配当 年次	単 位 数	授 業 形 態	食品製造・加工 モデル	食品開発モデル	食の安全・安心 モデル	食品流通サレ スモデル	卒業要件		
									区分ごとの要件1	区分ごとの要件2	備考
導入科目	スタートアップセミナーⅠ	1前	2	講義	●	●	●	●	13単位必修		
	スタートアップセミナーⅡ	1後	2	講義	●	●	●	●			
実践基礎	地域フィールドワーク	1前	1	講義	●	●	●	●			
	全学自由ゼミ	集中	1	演習							
	コミュニティ・プランナー概論及び演習	2前	2	講義							
情報統計	アントレプレナー基礎	集中	2	講義					2単位以上 選択必修		留学生は 2単位以上 選択必修
	コンピューターリテラシー	1前	2	講義	●	●	●	●			
	情報化社会と技術	1後	2	講義	●	●	●	●			
グローバルコミュニケーション	基礎統計学Ⅰ	1後	2	講義	●	●	●	●	必修科目を含めて 8単位以上修得 ※ただし留学生については備考のとおりとする		
	基礎統計学Ⅱ	2前	2	講義	●	●	●	●			
	English GatewayⅠ	1前	1	演習	●	●	●	●			
	English Self-ExpressionⅠ	1前	1	演習	●	●	●	●			
	English GatewayⅡ	1後	1	演習	●	●	●	●			
	English Self-ExpressionⅡ	1後	1	演習	●	●	●	●	必修科目を含めて 39単位以上修得	2単位以上 修得	
	English for Academic Purposes	2前	1	演習	●	●	●	●			
	English Expedition	2前	1	演習	●	●	●	●			
	University English	2後	1	演習	○	○	○	○			
	Academic Writing	2後	1	演習	○	○	○	○			
	Academic Reading	2後	1	演習	○	○	○	○			
	中国語Ⅰ	1・2前	1	演習					必修科目を含めて 4単位以上修得	2単位以上 修得	＊ ＊
	中国語Ⅱ	1・2後	1	演習							
	韓国語Ⅰ	1・2前	1	演習							
	韓国語Ⅱ	1・2後	1	演習							
	スペイン語Ⅰ/SpanishⅠ	1・2前	1	演習							
基盤教育科目	スペイン語Ⅱ/SpanishⅡ	1・2後	1	演習					必修科目を含めて 3単位以上修得		＊
	国際日本学/Japanology	1・2後	2	講義							
	グローバル・ビジネス/Global Business	1・2後	2	講義							
	憲法	1・2前	2	講義							
	政治学概論	1・2前	2	講義					2単位以上 修得		
	国際関係論	1・2後	2	講義							
	社会と経済	1・2前	2	講義	○	○	○	○			
	現代東北社会論	1・2後	2	講義							
	社会の諸相	1・2後	2	講義							
	社会と哲学	1・2前	2	講義					留学生のみ 履修可能	留学生は必修 留学生は必修 留学生は必修	留学生は必修 留学生は必修 留学生は必修
	人口学概論	1・2前	1	講義							
	文化人類学概論	1・2前	2	講義							
	数理科学	1・2後	2	講義							
	生命科学	1・2後	2	講義							
芸術・人文	環境学概論	1・2前	2	講義					2単位以上 修得		
	地球と宇宙	1・2前	2	講義							
	数学概論	1・2後	2	講義	○	○	○	○			
	物理概論	1・2後	2	講義							
	化学概論	1・2前	2	講義	●	●	●	●	必修科目を含めて 3単位以上修得		＊
	生物概論	1・2前	2	講義	●	●	●	●			
	現代メディアカルチャー論	1・2前	2	講義							
	美術	1・2後	2	講義							
	音楽	1・2後	2	講義					留学生のみ 履修可能	留学生は必修 留学生は必修 留学生は必修	留学生は必修 留学生は必修 留学生は必修
	美術演習	1・2後	1	演習							
	音楽演習	1・2前	1	演習							
	文学	1・2後	2	講義							
	世界の歴史と文化	1・2前	2	講義							
人間科学	日本の歴史と文化	1・2後	2	講義					2単位以上 修得		
	東北の歴史と文化	1・2前	2	講義	○	○	○	○			
	人と宗教	1・2前	2	講義							
	心理学	1・2後	2	講義							
	健康科学	1・2後	2	講義	○	○	○	○	必修科目を含めて 3単位以上修得		＊
	スポーツ実技	1・2後	1	実験・実習							
	体を動かす楽しみ	1・2前	1	実験・実習							
	スポーツ科学	1・2後	1	講義							
	福祉入門	1・2前	1	講義					留学生のみ 履修可能	留学生は必修 留学生は必修 留学生は必修	留学生は必修 留学生は必修 留学生は必修
	食と社会	1・2前	1	講義	●	●	●	●			
	日本語Ⅰ	1前	1	演習							
	日本語Ⅱ	1後	1	演習							
	日本語Ⅲ	2前	1	演習							
	日本語Ⅳ	2後	1	演習							
留学生対象	日本事情Ⅰ	1前	2	講義							
	日本事情Ⅱ	1後	2	講義							
	グローバルインターンシップ	1・2集中	2	演習					留学生のみ 履修可能		
全学共通科目	学外研修	1・2集中	2	演習							

備考欄に「＊」の付いている科目は、2年次までに修得しない場合に、進級要件における「未修得の必修単位」に該当する。

凡例：●・・・必修 ○・・・推奨

科目 区分		授業科目	配当 年次	単 位 数	授 業 形 態	食品製造・加工 モデル	食品開発 モデル	食の安全・安心 モデル	食流通 モデル	卒業要件			
										区分ごとの要件1	区分ごとの要件2	備考	
専門基礎科目		食産業学概論	1前	1	講義	●	●	●	●	必修科目を含めて 30単位以上修得			
		食材生産・加工実習Ⅰ	1前	1	実験・実習	●	●	●	●				
		経済経営学基礎	1後	2	講義	●	●	●	●				
		食材生産概論	1後	2	講義	●	●	●	●				
		フードマネジメント概論	1後	2	講義	●	●	●	●				
		科学基礎実験	1後	1	実験・実習	●	●	●	●				
		食材生産・加工実習Ⅱ	1後	1	実験・実習	●	●	●	●				
		財務・会計論	2前	2	講義				○				
		インターンシップ	2前	2	講義	●	●	●	●				
		分析基礎実験	2前	1	実験・実習	○	○	○	○				
		食産業学基礎演習	2前	1	演習	●	●	●	●				
		食品マーケティング基礎	2後	2	講義	●	●	●	●				
		応用統計学	2後	2	講義		○	○	○				
		地域食産業論	2後	2	講義	○	○	○	○				
共通科目		経済数学	2後	2	講義				○	必修科目を含めて 8単位以上修得		卒業要件単位に含まない	
		コミュニティ・プランナー実践論	2後	2	講義								
		キャリア開発	2後	2	講義	●	●	●	●				
		食料・農業・農村政策	3前	2	講義	●	●	●	●				
		キャリアインターンシップ	3前	2	講義	●	●	●	●				
		実践キャリア開発	3後	2	講義	●	●	●	●				
		食と未来	4後	2	講義	●	●	●	●				
	フードシステム・経営科目		食料経済論	2前	2	講義	●	●	●				●
			食品企業組織論	2前	2	講義		○	○				○
			食品企業経営論	2後	2	講義	●	●	●				●
			フードサービス産業論	2後	2	講義		○	○				○
			食品流通論	2後	2	講義		○	○				○
			食品企業経営戦略論	3前	2	講義	○	○					○
			フードシステム調査演習	3前	1	演習		○					○
		フードサービス事業運営論	3前	2	講義			○	○				
		食品マーケティング論	3前	2	講義		○		○				
		ローカルフードシステム論	3前	2	講義			○	○				
		食産業政策論	3前	2	講義			○	○				
		食品マーケティング演習	3後	1	演習		○		○				
		食品企業経営戦略演習	3後	1	演習				○				
		食品経済・政策論演習	3後	1	演習				○				
専門科目	食品製造・管理科学科目	フードコミュニケーション	3後	2	講義	○	○	○	○	必修科目を含めて 55単位以上修得		必修科目を含めて 8単位以上修得	
		フードサービス産業論演習	3後	1	演習			○	○				
		グローバルフードシステム論	3後	2	講義			○	○				
		食品情報科学論	3後	2	講義	○	○	○	○				
		食文化論	4前	2	講義		○	○	○				
		食産業・政策史	4前	2	講義				○				
		企業倫理	4前	2	講義		○	○	○				
		食品化学	2前	2	講義	○	○	○	○				
		農産食品学	2前	2	講義	○	○	○	○				
		食品衛生学	2前	2	講義	○	○	○	○				
		有機化学	2前	2	講義	●	●	●	●				
		生化学	2前	2	講義	○	○	○	○				
		栄養科学	3前	2	講義	●	●	●	●				
		微生物学	2前	2	講義	○		○					
専門関連科目	食品製造・管理科学科目	食品貯蔵・流通技術論	2後	2	講義	○	○	○	○	必修科目を含めて 8単位以上修得		必修科目を含めて 8単位以上修得	
		食品工学	2後	2	講義	○	○	○	○				
		水産食品学	2後	2	講義	○	○	○	○				
		畜産食品学	2後	2	講義	○	○	○	○				
		調理科学	2後	2	講義	○	○	○	○				
		食品衛生学実験	2後	1	実験・実習	●	●	●	●				
		微生物学実験	3前	1	実験・実習	○							
		食品化学工学	3前	2	講義	○							
		官能評価学	3前	2	講義	○	○		○				
		食品機能開発学	3前	2	講義	○	○	○					
		発酵食品・醸造学	3後	2	講義	○	○	○					
		品質保証システム演習	3集中	1	演習	○	○	○	○				
		食品の安全性管理	3後	2	講義	○	○	○					
		食感性科学	3後	2	講義	○	○		○				
専門関連科目	専門関連科目	食品化学実験	3後	1	実験・実習	○	○	○		8単位必修		卒業要件単位に含まない 卒業要件単位に含まない	
		食品栄養・機能学実験	3後	1	実験・実習	○	○	○					
		ライフステージ栄養学	4前	2	講義	○	○	○					
		食用作物学	2前	2	講義	○	○						
		肉の生産科学	2後	2	講義	○	○						
		環境科学	3前	2	講義			○					
		分子生物学	2後	2	講義	○	○	○					
		アグロテクノロジー	2後	2	講義			○					
		水産増殖学	3前	2	講義				○				
		生理学	3前	2	講義			○					
		乳と卵の生産科学	3前	2	講義	○	○						
		プログラミング基礎	3前	2	講義				○				
		コミュニティプランナー・フィールドワーク演習Ⅰ	3前	1	演習								
		コミュニティプランナー・フィールドワーク演習Ⅱ	3後	1	演習								
卒業研究	卒業研究	暮らしと作物	3後	2	講義				○	8単位必修		卒業要件単位に含まない 卒業要件単位に含まない	
		現代食農ビジネス論	3後	2	講義				○				
		卒業研究サーベイ	3後	2	演習	●	●	●	●				
		卒業研究Ⅰ	4前	3	演習	●	●	●	●				
		卒業研究Ⅱ	4後	3	演習	●	●	●	●				
基盤教育科目、全学共通科目、専門基礎科目、専門科目、卒業研究の合計												卒業要件単位数132単位以上修得	

4 一関連資格

食産業学群カリキュラムでは、卒業または特定の科目の修得によって学修分野に関連する下記の資格が取得できる予定です。各資格の取得に必要な科目の履修科目表については、「履修登録の手引き」を参照してください。

	資格名	認定	概要
生物生産学類 フードマネジメント学類	食の6次産業化 プロデューサー	一般社団法人 食農共創プロデューサーズ	生産(1次産業)、加工(2次産業)、流通・販売・サービス(3次産業)の一体化や連携により、地域の農林水産物を活用した加工品の開発、消費者への直接販売、レストランの展開など、食分野で新たなビジネスを創出する人材のスキル認定制度です。レベル2の認定校として「わかる」を担保し、申請書で「できる」ことを記載することで認定されます。国家戦略の段位認定制度の一つのため履歴書への記載が可能です。
	食品衛生監視員	厚生労働省	食品衛生上の問題を防ぐことを目的に、専門の検査や指導を行います。通常「食品Gメン」とも呼ばれ、国や自治体の公務員として職務にあたります。所定科目の単位を取得し、国や自治体の関連機関に就業した場合、申請の上で取得可能です。
	食品衛生管理者		食品の製造や加工を行う施設で、衛生管理を行う責任者のことです。工場や加工場で、食品衛生法上の違反がないかどうか、従業員の衛生管理ができていないかどうかをチェックする業務です。所定科目の単位を取得し、食品関連企業等に就職し、衛生管理の職に就き、申請の上で「食品衛生管理者」になることができます。
	HACCP管理者	日本食品保蔵科学会	HACCPシステムとは原料の入荷から製造・出荷までのすべての工程において、あらかじめ危害を予測し、その危害を防止(予防、消滅、許容レベルまでに減少)するための重要管理点(CCP)を特定して、そのポイントを継続的に監視・記録(モニタリング)し、異常が認められたらすぐに対策を取り解決することができるシステムです。HACCP管理者はそのシステムを管理できます。

宮城大学履修ガイド 2023